

ポスター発表一覧

会場	第1セッション					第2セッション				
	分野	10:00-12:00				分野	12:50-14:50			
ポスター発表1 (シンポジウム)	評価	A001 水戸淳	A002 秋山實	A003 熊野七	A004 酒井た	評価	A201 坂本沙	A202 太田大	A203 原田照	A204 宮島良
		A005 鹿嶋彰	A006 庄司恵	A007 坂野永	A008 今井新		A205 鹿内薫	A206 宇佐美	A207 謝せい	A208 永井亜
		A009 今井な					A209 金丸巧	A210 尾関史	A211 田中比	A212 山本絵
	年少	A010 岡田安	A011 大森麻	A012 川崎直		年少	A213 藤川美	A214 望月貴	A215 間瀬尹	A216 本間祥
		A013 服部圭	A014 佐藤真	A015 西山幸	A016 田中裕		A217 横山愛	A218 井上貴		
		A017 早瀬郁	A018 中野裕	A019 唐木澤						
	生活	A020 周萍	A021 武田知	A022 高橋亜		生活	A219 西山可	A220 新庄あ	A221 高田悠	A222 地引愛
		A023 遠藤知	A024 横内美	A025 松葉優			A223 松永典	A224 金田智	A225 坂内泰	
	専門	A026 劉偉	A027 福良直	A028 仁科浩		専門	A226 野村愛	A227 尉海瑩	A228 中村知	
		A029 山路奈	A030 清水ま	A031 堀尾佳			A229 総田は	A230 林宏美	A231 前田京	
	教師	A032 佐藤五	A033 阿部啓	A034 神田義		教師	A232 浜田麻	A233 鎌田美	A234 佐藤綾	
		A035 内田さ	A036 今井寿	A037 中尾有	A038 石塚京		A235 松尾憲	A236 富谷玲	A237 中川良	A238 渡辺良
		A039 松本裕	A040 芹澤有	A041 村越彩	A042 鎌田美		A239 八木真	A240 田中綾	A241 角浜ひ	A242 金桂英
		A043 瀬尾匡					A243 野畑理			
	社会	A044 原田幸	A045 高橋聡	A046 守屋久		社会	A244 鈴木寿	A245 芝原里	A246 佐藤正	
		A047 井上里					A247 松本彩	A248 中谷潤	A249 小浦方	A250 山本晋
	習得	A048 福田倫	A049 施列庭	A050 二口和		習得	A251 ボイク	A252 福田規	A253 桃生朋	A254 伊藤文
		A051 畑佐由	A052 玉岡賀	A053 曹紅全	A054 副島健		A255 末繁美	A256 迫田久	A257 矢吹ソ	A258 伊藤亜
		A055 西坂祥	A056 大西由	A057 阪上辰	A058 小林由		A259 近藤か	A260 永井絢	A261 徐珉廷	A262 ベロニ
		A059 島崎薫	A060 石橋玲	A061 久保田			A263 徐孟鈴	A264 菅生早	A265 吉澤佑	
語彙	A062 村田志	A063 張婧禱	A064 加藤恵		語彙	A266 井上次	A267 卓孟昭	A268 木田真		
	A065 小木曾	A066 中溝朋	A067 熊薇	A068 徐微潔		A269 畑ゆか	A270 田辺和	A271 秋元美	A272 稲葉み	
文法	A069 簡靖倫	A070 ラルア	A071 黒田弘	A072 鄭光峰	文法	A274 大山シ	A275 川口義	A276 小竹直		
	A073 上原由	A074 増田真				A277 前原か	A278 堀恵子			
語用	A075 大堀裕	A076 ボラニ	A077 鈴木恵	A078 小野正	語用	A279 朱ヒヨ	A280 大西美	A281 中西久	A282 大和啓	
	A079 張玲玲					A283 大友沙				
談話	A080 陳エン	A081 山根智	A082 奥川育		談話	A284 藤浦五	A285 下谷麻	A286 今田恵		
	A083 大上協	A084 市村葉	A085 川上ゆ	A086 耿立平		A287 瞿葉菁	A288 張承姫	A289 鹿嶋恵		
音声	A087 栗原通	A088 波多野	A089 寺田裕	A090 峯松信	音声	A290 河野俊	A291 田川恭	A292 高村め		
	A091 平野宏	A092 松崎寛	A093 渡邊靖			A293 汪南雁	A294 柳澤絵	A295 畑由美	A296 渡辺裕	
文字	A094 豊田悦	A095 丹羽典	A096 小野由		文字	A297 佐野香	A298 加納千	A299 印道緑	A300 梁志鋭	
	A097 徳弘康					A301 池田智	A302 金世連	A303 尾崎ち	A304 嶋津百	
異文	A101 斎藤里	A102 ヴルチ	A103 藤森弘	A104 金海月	異文	A305 本田明	A306 吉野文	A307 西俣貴	A308 廣内裕	
	A105 大谷つ	A106 坂本恵	A107 三浦香	A108 粟飯原		A309 浜田昌	A310 川崎夕	A311 小針奈		
	A109 大味潤	A110 上田美	A111 森口祐							
ポスター発表2 (2階ロビー)	読む	A121 韓舒玥	A122 木谷直		読む	A321 杉山春	A322 ス二一	A323 田川麻		
	聞く	A123 韓暁	A124 岩下真	A125 徐芳芳	聞く	A324 陳怡卉	A325 小河原	A326 田中孝		
	書く	A126 総田は	A127 伊集院	A128 塚原佑		書く	A327 楊姍燁	A328 永岡悦	A329 由井紀	A330 カム
		A129 勝見美	A130 池田隆	A131 薄井良	A132 石毛順		A331 八木豊	A332 脇田里	A333 三輪譲	
	話す	A133 中尾桂	A134 王金博			話す	A334 李セロ	A335 呂惠莉	A336 ヒルマ	
		A135 柳田直	A136 柳町智	A137 萩原幸	A138 佐藤智		A337 寺嶋弘	A339 赤城永		
	教室	A139 西村美				教室	A340 由志慎	A341 諏訪昭	A342 佐藤弘	
		A143 荒井智	A144 高岸美	A145 葉子嫣	A146 押尾和		A343 中川彰	A344 熊野由	A345 塩谷奈	A346 鄭立民
	教材	A147 松浦恵				教材	A347 黒田類	A348 篠原亜		
		A148 大木理	A149 阿辺川	A150 森川結			A349 高橋薫	A350 大津友	A351 和田礼	A352 森幸穂
		A151 高屋敷	A152 二色博	A153 来嶋洋	A154 江田早		A353 武田聡	A354 野田岳	A355 宮崎七	A356 藤村知
		A155 権藤早	A156 若瀬あ	A157 Agus S	A158 黒羽千		A357 黒沢晶	A358 難波康	A359 小林由	A360 伊藤誓
		A159 遠藤由	A160 江副隆				A361 木下謙	A362 落合由	A363 金秀英	
	教史	A161 川上尚	A162 松浦と			其他	A364 渡辺由	A365 高田幸	A366 Chris	

第3セッション					会場
分野	15:40-17:40				
評価	A401 原田三	A402 鎌田倫	A403 中濱晴	A404 三枝優	ポスター発表1 (シンポジオン)
	A405 金庸珏	A406 松下達	A407Nguyen	A408 西嶋千	
年少	A409 高梨宏	A410 島田友	A411 服部美	A412 齋藤ひ	
	A413 野村和	A414 真島知	A415 川上晃	A416 菅田陽	
	A417 加藤淳	A418 陳淑娟	A419 池田広		
生活		A420 田中美	A421 上原龍	A422 品田潤	
	A423 徳永あ	A424 須賀和	A425 福村真		
専門		A426 佐藤綾	A427 吉永尚	A428 西隈俊	
	A429 神村初	A430 梅田千			
教師	A431 何建軍	A432 濱島秀	A433 佐藤礼	A434 佐々木	
	A435 伊藤横	A436 菊岡由	A437 坪根由	A438 杉山朗	
	A439 李玢兒	A440 トンプ	A441 石井容	A442 濱川祐	
	A443 覃岳鋒	A444 スニー			
社会	A445 根本愛	A446 小笠恵	A447 瀬尾匡	A448 今村和	
	A449 黒崎佐	A450 宮崎里	A451 太田宗		
習得		A452 初相娟	A453 山内薫	A454 鈴木綾	
	A455 姚艶玲	A456 金菊熙	A457 須藤潤	A458 吉田雅	
	A459 升岡香	A460 小針奈	A461 郭毓芳	A462 大坪優	
語彙	A463 周聞	A464 湯瑾	A465 飯田香	A466 李炫浄	
	A467 小森早	A468 金蘭	A469 堀場裕	A470 劉善鈺	
	A471 曲曉燕				
文法		A472 結城佐	A473 菊池律	A474 朽方修	
	A475 久保田				
語用		A476 王金博	A477 張希朱	A478 橋本拓	
	A479 古田朋	A480 黎秋虹			
談話	A481 楊虹	A482 橋本洋	A483 田中真	A484 増井奈	
	A485 志賀玲	A486 初鹿野	A487 梅木俊		
音声		A488 木下直	A489 大久保	A490 石澤徹	
	A491 高橋恵	A492 金瑜眞	A493 全娟妹		
文字		A494 黎婉珊	A495 岸本俊	A496 野波幸	
	A497 貫智				
異文	A501 堀尾佳	A502 石原美	A503 野山広	A504 山田貴	
	A505 宇都宮	A506 細谷美	A507 堀井恵	A508 古本裕	
読む	A521 大島弥	A522 小澤伊	A523 熊田道	A524 桑原陽	ポスター発表2 (2階ロビー)
聞く	A525 ソーリ	A526 坂本勝	A527 新井潤		
書く		A528 仲島ひ	A529 古川嘉	A530 加藤理	
	A531 槌田和	A532 飯嶋美	A533 木戸光	A534 藤井明	
	A535 坂口清				
話す		A536 坂本恵	A537 金庭久	A538 木曾美	
	A539 住田環	A540 小松麻	A541 岩下智		
教室		A542 守屋久	A543 徳間晴	A544 水上弘	
	A545 黄均鈞	A546 武藤理	A547 神田義	A548 李址遠	
	A549 掛本蘭	A550 仲野美			
教材	A551 黄淑妙	A552 山口久	A553 渡邊靖	A554 二村年	
	A555 大谷晋	A556 守山恵	A557 山田智	A558 川端葉	
	A559 羽吹幸	A560 渡邊知	A561 杉本巧	A562 来嶋洋	
	A563 毛利貴	A564 尹惠珍	A565 相川弓		
教史		A566 劉盈孜	A567 松岡英		

一覧の名前は筆頭発表者の上から3文字を記載しています。

ポスター掲示時間は2時間です。

奇数番号は前半の1時間、偶数番号は後半の1時間、ポスターの前で説明を行います。

年少：年少者

生活：生活者

専門：専門日本語

異文：異文化コミュニケーション

語用：語用論

教史：教育史

其他：その他

※一部、予稿集に発表要旨が掲載されていないものもあります。

ポスター発表一覧の発表タイトルと、予稿集発表要旨の発表タイトルや当日の配付資料等のタイトルが一致していない場合は、本プログラムに掲載されているタイトルが正式タイトルです。

ポスター発表 第1セッション (10:00-12:00)
 〈奇数番号 10:00-11:00 偶数番号 11:00-12:00〉

第1会場 (シンポジオン)			
【評価】	A001	学習者の「コース到達目標」の受けとめ方と到達度の自己評価について	水戸淳子
	A002	プレースメントに適したアダプティブテストシステムの開発	秋山寛
	A003	JFS/CEFRに基づくレベル認定試験 (A1) の開発	熊野七絵
	A004	SPOT の得点が表しているもの —アメリカの大学におけるプレースメントテストとしての利用にむけて—	酒井たか子
	A005	「Can-do statements 項目から回答者は実際何を想起するか」 —国内と海外の日本語学習者の比較から—	鹿嶋彰
	A006	PCによる口頭能力試験のための新課題開発および課題改良	庄司恵雄
	A007	CEFR チェックリストを使った日本語能力の自己評価の変化	坂野永理
	A008	スピーキング自動採点テストのための問題アイテム作成	今井新悟
	A009	日本語学習者のポートフォリオに対する認識と実態の探索調査 —ポートフォリオの作成と促進のために—	今井なをみ
【年少】	A010	外国人児童生徒の語彙習得 —PVT-R 絵画語彙発達検査の結果から—	岡田安代
	A011	取り出し支援のあり方を考える —JSL の子どもの主体的に学ぶ姿勢を育てる教科指導実践の試み—	大森麻紀
	A012	「年少日本語学習者への日本語『読み書き』学習支援」 —JSL 幼児・児童・生徒への支援実態と「発達保障」—	川崎直子
	A013	日系ブラジル人の子どもたちの言語と歴史の学びを支える教材 —「日本・ブラジル移民カルタ」の開発—	服部圭子
	A014	「教科・母語・日本語相互育成学習モデル」がもたらす学び —言語少数派の子どもの教科内容理解—	佐藤真紀
	A015	小中学校における外国人児童生徒への学生ボランティア派遣 —取り出し支援を行っているボランティア学生へのアンケート調査より—	西山幸子
	A016	外国人年少者に対する漢字・語彙教育の実践 —自立的学習力に注目した指導法のデザインと効果の検証—	田中裕祐
	A017	教科学習に繋がる日本語指導法の提案 —散在地域での JSL 児童生徒の日本語指導—	早瀬郁子
	A018	幼年期来日児童の学習活動への参加プロセス	中野裕美子
A019	JSL の子どもの学校生活を親が知るための場づくり —子どもの日本語支援者は何ができるか—	唐木澤みどり	
【生活】	A020	生活者としての外国人の日本語学習に影響を与える要因の研究 —地域の日本語教室をやめた中国人学習者を通して—	周萍
	A021	日系人講師養成講座は受講生に何をもたらしたのか	武田知子
	A022	「生活者としての外国人」に対する文字学習アプリの開発	高橋亜紀子
	A023	地域日本語活動の改善と発展に向けたボランティア研修の試み	遠藤知佐
	A024	非日本語母語話者も「やさしい日本語」を！ —「やさしい日本語」を構築する場としての地域日本語教室の可能性に注目して—	横内美保子
	A025	浜松市外国人学習支援センターの取り組み	松葉優子
【専門】	A026	中国の学会誌に掲載された人文科学系論文における文章構造の分析	劉偉
	A027	専門基礎日本語段階にある研究留学生の学習過程	福良直子
	A028	日本人学生が口頭発表時の質疑応答において感じる困難点 —刺激回想法を用いた日本人大学院生への調査—	仁科浩美
	A029	学術的活動における日本語使用の実態と支援ニーズに関する質的調査 —大学院留学生・帰国留学生と専門分野教員を対象に—	山路奈保子
	A030	日本語ノンネイティブ教師は自身の論文執筆経験と論文指導をどのように関連づけているのか —修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる視点提示型研究—	清水まさ子
	A031	「魅力あるエントリーシート」の指導法提案 —留学生就職活動支援における日本語指導を実践して—	堀尾佳以
【教師】	A032	実践報告：国際交流基金カイロ日本文化センター日本語教師養成講座の取り組み —100時間で何ができるか—	佐藤五郎
	A033	教師と学生間の双方向コミュニケーション・ツール（大福帳）と教師による返信の効果と可能性 —日本人学生と留学生の混合クラスにおける授業より—	阿部啓子
	A034	アクションリサーチによる共通語アクセント習得過程 —アクセントに悪戦苦闘—	神田義太
	A035	日本語会話授業における教授行動の事例研究 —学生からのフィードバックを分析して—	内田さくら
	A036	大学の枠を超えた教育実習における実習生の気づきと学び	今井寿枝

* 発表者名：筆頭発表者のみ記載 * 発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

【教師】	A037	学習過程を支援するための教師対象日本語コースの試み —JF 日本語教育スタンダードを利用して—	中尾有岐
	A038	留学生との作文交流活動における日本語教員養成課程履修学生の学び —「協働」「学習者主体」の視点から—	石塚京子
	A039	小規模大学における留学生の学習環境整備 —学生の自主的な「日本語教育活動」を事例として—	松本裕典
	A040	インドネシアの大学における会話授業改善の試みと教員の意識の変化 —インドネシア人教師と日本語母語話者指導助手との協働授業から—	芹澤有美
	A041	進学を希望する日本語学校に通う留学生の進路選択自己効力を高める試み	村越彩
	A042	グループによる協同作業とふりかえりを重視した研修による参加者の学び —韓国における中等日本語教師研修の実践から—	鎌田美保
	A043	繋がる世界の日本語教師 —インターネットを使った教師間の対話からの自己成長—	瀬尾匡輝
【社会】	A044	大学生の日常会話における形容詞の語幹用法	原田幸一
	A045	学習者の人生にとって、教室実践はどのような意味をもつか —初級レベル教室実践『わたし』を探して自分史年表をつくりながら—	高橋聡
	A046	現代日本語小説における「女ことば」「男ことば」を用いた表現 —日本語教育への応用を視野にいれて—	守屋久美子
	A047	所有者敬語（自動詞主語文）の自然さ判断に与える要因 —日本語母語話者アンケート調査およびフォローアップインタビューから見てきたもの—	井上里鶴
【習得】	A048	入門期日本語学習者の非単語反復能力と文字知識との関係	福田倫子
	A049	音声認識と合成技術を利用した WEB 型日本語口頭訓練システムの構築	施列庭
	A050	第二言語の習熟度とワーキングメモリ —言語適性としてのワーキングメモリの役割—	二口和紀子
	A051	教師主導型活動とペアワークにおける教師の訂正フィードバックの効果	畑佐由紀子
	A052	中国人日本語学習者の学習様式による語彙力、文法力、読解力、聴解力の予測	玉岡賀津雄
	A053	学習者作文コーパスのための誤用種別標準化に向けての検証と確定	曹紅荃
	A054	中国における日本語学習者の学習スタイルおよび動機づけに関する研究 —中国人学習者の日本語力に影響を及ぼす要因—	副島健作
	A055	JFL 学習者の日本語文末表現の習得に関する研究 —スロヴェニア人日本語学習者との会話をもとに—	西坂祥平
	A056	動機傾向の違いによる有能感と自己評価、目標、目標達成見込みの関連 —ウクライナの大学で日本語を専攻する学習者を対象に—	大西由美
	A057	日本語母語話者による定型表現の処理に関する研究 —「N を V」を例に—	阪上辰也
	A058	日本語学習者の時間的展望 —動機づけの観点から—	小林由子
	A059	オーストラリアの日本語学習者における学習者オートノミーの発揮についての一考察	島崎薫
	A060	外国語学習環境下の日本語学習に関わる情意要因の関連	石橋玲子
A061	中級以降の口頭表現能力の伸びと日本語学習経験、ビリーフとの関係 —中級・上級レベルのノンネイティブ日本語教師に対する半年間の研修を通して—	久保田美子	
【語彙】	A062	初級形容詞応用編：実用化を目指した敬語形容詞の語句の分類について —「お忙しくていらっしゃる」「お若くていらっしゃる」を中心に—	村田志保
	A063	中国人日本語学習者による流行語の理解	張婧禕
	A064	「すぎ」と「くらい」の意味について	加藤恵梨
	A065	非漢字圏初級日本語学習者に対する語彙指導の課題 —語彙学習ストラテジー、漢字学習ストラテジー育成の観点から日本語学習入門期の語彙学習を考える—	小木曾左枝子
	A066	共起表現から見た「決定」「決心」「決意」「決断」「判断」の異同について —『書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』と検索アプリケーション「中納言」を利用して—	中溝朋子
	A067	VN 型の日中同形漢語の比較対照 —語構成と動詞の自他性を中心に—	熊薇
	A068	女性標示語「女子～」の使用実態 —新聞記事検索データから—	徐微潔
【文法】	A069	複文におけるテンス有無についての対照研究 —日本語と中国語—	簡靖倫
	A070	日本語とタイ語の受動文における被害性について —タイ語の4形式と述語動詞の関係を中心に—	ラルアイソング・ タナバット
	A071	日本語と中国語の間接受身表現について	黒田弘美
	A072	イメージ図式による授受動詞の指導法 —与え動詞「あげる・くれる」を中心に—	鄭光峰
	A073	短期留学生のための初級文法のシラバスに関する一考察 —クラス外でのインターアクションと学習者の「言いたい」「わかりたい」を考慮して—	上原由美子
	A074	認知プロセスを考慮した補助動詞の文型指導 —「てある」「ておく」「てくる」「てもらう」を例として—	増田真理子
【語用】	A075	《主張》における迂言的二重否定にみられる配慮表現の研究	大堀裕美
	A076	不同意表明に見られる語用論的特徴 —タイ語を母語とする日本語学習者の場合—	ボラニー・ピナ ンソツティクン

* 共同発表者名は人名索引でお調べください。

【語用】	A077	中国人日本語学習者の断り表現における逆行転移	鈴木恵理子
	A078	“丁寧”のタイポロジー研究 —中国語・韓国語・ロシア語・ウズベク語・ドイツ語・シンハラ語を対象として—	小野正樹
	A079	言語的修復行動における他者開始表現について	張玲玲
【談話】	A080	日本語母語話者による指示詞コンソアの使用頻度に関する研究 —母語場面と接触場面の違いを中心に—	陳エン如
	A081	発話の丁寧度におけるフィラーの影響 —日本人及び中国人学習者への聴取実験結果をもとに—	山根智恵
	A082	英語を母語とする日本語学習者の連体修飾節の使用 一日・英語の物語談話の分析から—	奥川育子
	A083	情報要求に応える情報提供部分に現れる「よ」が付加される発話の種類とその出現位置 —インタビュー記事を資料として—	大上協子
	A084	自然会話で使用される「の(だ)ね」「の(だ)よね」	市村葉子
	A085	発話とジェスチャー 一言葉につまった時の行動—	川上ゆか
	A086	独話における接続詞「で」の使用実態 一日本語母語話者と日本語学習者の比較から—	耿立平
【音声】	A087	母音の長短知覚判断における音節構造の影響 —中国語北方方言母語話者・日本語母語話者の場合—	栗原通世
	A088	MRI 動画像を用いた日本語二重母音調音の分析 一中国語・英語との対照—	波多野博頭
	A089	ウェブを利用した音声授業	寺田裕子
	A090	音声出力機能を有したオンラインアクセント辞書の構築	峯松信明
	A091	ゼロ初級から「総合日本語」で行うアクセント、イントネーションの自然性重視の音声教育	平野宏子
	A092	音声認識システムを活用した発音自学システムの開発と試用	松崎寛
	A093	下線方式によるピッチ表記法とF0曲線との整合性について	渡邊靖史
【文字】	A094	非漢字圏日本語学習者のための漢字の音符の研究	豊田悦子
	A095	日本語能力を高めるための小学校低学年配当漢字指導法 —漢字学習入門者の意欲を大切にしたい指導法の研究—	丹羽典子
	A096	トルコ語を母語とする初級日本語学習者における漢字の形態と読みの対連合学習 —トルコ語と日本語の音韻類似性に着目して—	小野由紀子
	A097	言語の枠を超えた第二言語としての漢字教育の研究	徳弘康代
【異文】	A101	人と人をつなぐ遠隔日本語教育の可能性	齋藤里衣子
	A102	話し手の発話中における聞き手の相槌頻度の分析 —学習語接触僅少地域における日本語コミュニケーション能力向上に着目して—	ヴルチェック実奈子
	A103	超短期プログラムにおけるタスク型活動とeポートフォリオの試みについて	藤森弘子
	A104	日・朝・中の相づちの機能に関する考察 —中国籍の朝鮮族日本語学習者の機能別相づちの使用割合を中心に—	金海月
	A105	Skype を活用した会話活動 一“教え込む立場”からの脱却—	大谷つかさ
	A106	日本語母語話者・中国語母語話者間の敬語コミュニケーションを阻害する文化的な違いについて —断りを中心に—	坂本恵
	A107	ビデオ会議による異文化交流ディスカッションの方法論確立へ向けて	三浦香苗
	A108	異文化間コミュニケーションにおける対照言語行動的視点の育成 —ビジネス接触場面で意識される問題の解決を求めて—	粟飯原志宣
	A109	カルチュラルオリエンテーションを用いた第2言語教育 —日英言語教育における各成果から—	大味潤
	A110	グローバル化時代を視野に、日本語教師ができること —留学生との接触場面が日本人学生に残したもの—	上田美紀
	A111	大学で日本語を学ぶ帰国子女のアイデンティティ —「生きるとは何か」をテーマとした授業を通して—	森口祐子
第2会場 (2階ロビー)			
【読む】	A121	日本語学習者の文章理解・記憶におけるつぶやき読みの効果 —音読・黙読との比較を通して—	韓舒玥
	A122	「質問—回答」による学習者ペアの相互行為的「再話」活動	木谷直之
【聞く】	A123	中国国内の中級日本語学習者におけるシャドーイング練習の有効性 —聴解テストとリスニングスパンテストの分析を通して—	韓暁
	A124	テキストの視覚呈示を伴うシャドーイングにおける学習者の注意配分 —中国人日本語学習者を対象とした聴覚・視覚同時呈示による検討—	岩下真澄
	A125	日本語学習者の聴解における予測が日本語文の理解に及ぼす効果 —文脈性と学習者の作動記憶容量の観点から—	徐芳芳
【書く】	A126	学習者用作文チェック項目リスト作成のための基礎調査	総田はるみ
	A127	意見文のタイトルの形式と機能 一日本・台湾・韓国の比較—	伊集院郁子

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

【書く】	A128	日本語母語話者は学習者の作文をどのように読んでいるのか —総合評価「分かりやすさ」における表現の適切さとテキストの結束性の関連性—	塚原佑紀
	A129	アブダビの高等学校における学習記録ノートの実践	勝見美恵子
	A130	上級日本語学習者執筆の作文評価の実態	池田隆介
	A131	中国人留学生の句読点使用の誤用分析	薄井良子
	A132	英語を母語とする日本語学習者の作文過程の発達	石毛順子
	A133	文系学術論文と文系留学生のレポートに見られるアカデミック性の違い	中尾桂子
	A134	日本語上級学習者は作文の文型をどのようにとらえているか —文型辞典の意味・機能別リストによる中国人上級学習者の文型認定を通して—	王金博
【話す】	A135	初級学習者対象のコミュニケーション活動学習者の自己評価変化 —Can-do Statementsを用いた自己評価—	柳田直美
	A136	インタビュー場面における聞き手の理解の表示 —連鎖上の位置および情報の質的差異との関係—	柳町智治
	A137	OJAE (Oral Japanese Assessment Europe) が拓く新たな地平 —CEFR 準拠口頭能力評価法の可能性—	萩原幸司
	A138	中国国内の中級日本語学習者におけるシャドーイング練習の効果 —音読の流暢性とエラーの種類の影響を通して—	佐藤智照
	A139	ACTFL-OPI における語用論的能力と予測 —会話のコミュニケーション能力を測定する要素—	西村美保
【教室】	A140	スキマ時間で行える聴解トレーニング教材開発とその使用調査報告 —ミニマルペアによる音の聞きわけトレーニング教材活用法について—	大崎伸城
	A141	中国における持続可能な生き方を考える日本語教育の試み —大学教育の「聴解」授業の事例から—	小田珠生
	A142	初級前半レベルにおけるインタビュープロジェクトの実践報告 —教室内活動の観察記録と評価シートの分析—	菊池富美子
	A143	協働学習によるドラマ作りの可能性 —台湾の大学四年生の会話クラスでの試み—	荒井智子
	A144	協働作業によって総合的日本語能力を育成する授業	高岸美代子
	A145	台湾における第二外国語学習者の学習動機および学習持続困難の要因 —アンケート作成を中心に—	葉子媽
	A146	Can-do を到達目標とした授業設計の試案	押尾和美
【教材】	A147	J-GAP 韓国の取り組み —教室での実践および研究チームの発足—	松浦恵子
	A148	アカデミックジャパニーズに対応した聴解教材開発 —要約と構成表を中心に—	大木理恵
	A149	日本語作文支援システム「なつめ」における新たな用法の組み込み	阿辺川武
	A150	認知的教材開発の試み —基本動詞のイメージを対象として—	森川結花
	A151	リソース型教材, ディスカッションを利用した上級読解授業の実践	高屋敷真人
	A152	マインドマップを活用した日本語練習ワークの可能性	二色博樹
	A153	教科書作成におけるコミュニケーション言語能力を養成するための方策 —『まるごと 日本のことばと文化 理解編』の場合—	来嶋洋美
	A154	ポートフォリオ評価法を取り入れた「日本文化演習」の実践例とその有効性	江田早苗
	A155	タスク中心・接触場面指向の会話教材開発	権藤早千葉
	A156	歌舞伎と日本語教育 —CLIL 理論に基づいた教材化の視点—	岩瀬ありさ
	A157	インドネシア人日本語学習者が求める初級日本語の教科書とは？ —アンケート調査を基にして—	Agus Suherman SURYADIMULYA
	A158	技能実習生の日本語習得を支える非専門の日本語指導員のための教材開発	黒羽千佳子
	A159	学習者の負担感軽減, 意欲向上をねらった文字教材の開発	遠藤由美子
【教史】	A160	iPad や塗り絵を利用した視覚的教材の開発 —日本人ろう児童や, 外国人日本語学習者に対する可視化した文法教育を行う—	江副隆秀
	A161	日中戦争期中国華北の省・特別市公署における日本語学習奨励の施策 —青島特別市公署の各種試験を中心に—	川上尚恵
	A162	中国の日本語教育研究の発展と課題	松浦とも子

*共同発表者名は人名索引でお調べください。

ポスター発表 第2セッション (12:50-14:50)
 〈奇数番号 12:50-13:50 偶数番号 13:50-14:50〉

第1会場 (シンポジオン)			
【評価】	A201	中級クラス読解テストの作成と改善に関する実践報告	坂本沙織
	A202	日本語学習者の作文能力を測定する間接テストとしての語句整序問題と空欄補充問題の効果	太田大輔
	A203	多読のための語彙レベルテスト開発に関する研究 —日本語の多読を始める学習者のために—	原田照子
	A204	専門講師による作文の評価	宮島良子
	A205	日本語学習者の発話に対する母語話者の理解と評価 —京都外国語大学留学生別科の場合—	鹿内薫
	A206	「評価プロセス」の普遍性と個性を探る —「学習者の書いた謝罪文」を題材として—	宇佐美洋
	A207	ロールプレイによる日本語会話テストの実践報告	謝せい弘
	A208	日本語上級クラスに於ける小説の導入とその形成的評価	永井亜矢子
【年少】	A209	地域の教室における子どもの学びをどのように支えるか —支援者へのインタビューの分析を通して—	金丸巧
	A210	国際結婚家庭における親の言語教育意識と子どもの日本語習得 —韓国在住の日韓国際結婚家庭へのインタビューから—	尾関史
	A211	地域こども日本語&学習支援教室における学習指導者(大学生)の視点	田中比呂美
	A212	オランダ在住の子どものようにアイデンティティと日本語学習を認識しているか —日本人の親をもつ中学生のインタビュー調査から—	山本絵美
	A213	小学校算数教科書における基本動詞の多義的用法 —小学校教科書コーパスを利用して—	藤川美穂
	A214	「受け継がれる日本語」の周縁性 —在香港日系国際児に対する継承日本語教育の現状—	望月貴子
	A215	「定住型生徒」の生活環境から見る日本語の習得状況に関する考察 —中学就学年齢で来日した子どもたちに対する調査・観察から—	間瀬尹久
	A216	複数言語環境にある親子はことばの学習をどう捉えているか —ことばの意味付けの変容過程から探る年少者日本語教育実践—	本間祥子
	A217	不安の捉え直しを通して自らの学びを見出すための日本語教育 —JSL高校生を対象とした放課後支援の取り組みから—	横山愛子
A218	高校留学生のことばの学びを支える支援者のあり方とは何か	井上貴子	
【生活】	A219	多文化共生「まちづくり」における対話協働型活動の実践 —生活者としての外国人と日本人をつなぐ持続可能な活動を目指して—	西山可菜子
	A220	定住外国人に対する漢字学習の必要性とその実践	新庄あいみ
	A221	日本語教育専攻の学生による「地域日本語教室」で教師が抱える問題	高田悠紀子
	A222	学校配布物理解のための必要語彙に関する基礎的研究	地引愛
	A223	大学の中の地域日本語教室の可能性と課題 —生活者・日本語教育実習生が協同的に参加する実習を通して—	松永典子
	A224	研究成果をいかに公表するか —活用しやすい「生活のための日本語」内容一覧をめざして—	金田智子
	A225	生活困窮者のための日本語教室 —生活の自立に向けて—	坂内泰子
【専門】	A226	EPA介護福祉士候補生のための国家試験対策 —やさしい日本語版教材と教材ワークショップ—	野村愛
	A227	キャビンアテンダント専攻の学生向けの初級日本語授業について	尉海瑩
	A228	「介護の日本語」に携わる教師の専門性を考える —外国人定住者の介護就労支援訓練における日本語研修を通じた教師の変容から—	中村知生
	A229	観光学における専門日本語語彙調査	総田はるみ
	A230	日本語教師と介護福祉士担当者の介護福祉士国家試験対策への取り組み —国内2か所の介護福祉施設の事例から—	林宏美
	A231	タイ南部地方における観光日本語教育の実践例	前田京子
【教師】	A232	日本語を母語としない子どもに関する大学生の認識 —学校教員養成課程と日本語教師養成課程で養成すべき資質とは?—	浜田麻里
	A233	海外日本語教育現場で活動する日本人日本語教師の支援・養成に関する研究 —中国高等教育機関における日本人日本語教師と中国人日本語教師の教育体験モデルの作成から—	鎌田美保
	A234	教育実習プログラムにおける実習生の成長モデル	佐藤綾
	A235	日本人教師のタイ人教師との協働における意識 —質問紙調査から見えること—	松尾憲暁

*発表者名:筆頭発表者のみ記載 *発表分野:発表者による希望審査分野に基づく(一部,内容により分野の変更あり)

【教師】	A236	海外日本語教育実習における指導目標の検討 —実習生からのフィードバックに基づく分析—	富谷玲子
	A237	中国の日本語教員と学習者の「いい授業」観	中川良雄
	A238	海外で活動する母語話者日本語教師の任国語習得についての予備的調査 —中国における JICA ボランティアの事例—	渡辺良康
	A239	学習支援者としての教師の役割を考える —教室外における留学生の学習活動を支援する教師の振り返りより—	八木真奈美
	A240	日本語教師が職場を去るとき —TAE を用いた教師ビリーフ分析の一例—	田中綾子
	A241	ピア・サポートを目指す留学生支援システムにおける支援スタッフの学び —場と人間関係に対する認識の変化という観点から—	角浜ひとみ
	A242	協働実践による学習者と教師間の学び —チュートリアル日本語支援を通して—	金桂英
	A243	何が学習者の文化的気づきを深化させるのか —短期訪日日本語研修における実践から—	野畑理佳
【社会】	A244	日本留学中の女子大学院生の語り —留学生活の意味づけに着目して—	鈴木寿子
	A245	日本語教室コミュニティへの参加実践を通して複言語主義の日本語教育を考える —学習者による相互評価を取り入れたスキット制作—	芝原里佳
	A246	日本語第二言語話者としての留学生のアイデンティティ形成と更新 —ライフストーリーからみる転機とその意味付けの考察—	佐藤正則
	A247	インドにおける日本語教育の社会的意義 —学習ニーズの実態調査を通じて—	松本彩
	A248	EPA によるインドネシア人看護師候補者の多言語・多文化経験 —ライフストーリー・インタビューから—	中谷潤子
	A249	ポップカルチャーを日本語学習動機とする留学生の語り —TAE を使った質的分析—	小浦方理恵
	A250	留学生は日本での留学生生活をどう体験しているか —専門学校で学ぶ留学生へのインタビュー調査を通じて—	山本晋也
【習得】	A251	日本語の話言葉における音声転訛の習得 —撥音化現象に注目して—	ボイクマン総子
	A252	日本語学習者の否定形の習得 —口頭産出実験と質問紙による品詞判断との一致率の比較—	福田規子
	A253	中国語母語話者による名詞句の定性／不定性の習得	桃生朋子
	A254	引用表現の習得研究 —ウズベキスタン日本語学習者を対象に—	伊藤文
	A255	視点統一の有無が複文理解に与える影響 —統一の種類に着目して—	末繁美和
	A256	日本語学習者の縦断的会話コーパスの構築と習得研究 —3年間のデータから文法習得の過程を探る—	迫田久美子
	A257	ストーリーテリング文中での日本語関係節の用法 —学習者と母語話者を比較して—	矢吹ソウ典子
	A258	中国語母語日本語学習者の受身の産出 —ディクトグロスを用いた調査を通して—	伊藤亜希
	A259	補助動詞「テシマウ」の導入に関する一提案 —構造的・語用論的考察とコーパス分析の結果から—	近藤かをり
	A260	シンハラ人日本語学習者の作文に見られる格助詞の誤用について	永井絢子
	A261	日韓母語話者と韓国人日本語学習者の〈事態把握〉 —シナリオ作成法調査の結果から—	徐珉廷
	A262	日本語学習者による主格使用の回避	ペロニカ・ゲオルギエバ
	A263	台湾人中級日本語学習者の文末省略「が」と「けど」の使用状況 —日本語母語話者と比較して—	徐孟鈴
	A264	助詞の使用に関するメタ言語知識は、リキャストとメタ言語フィードバックの認識にどのように関わるか —中級学習者に対する刺激回想法インタビューに基づいて—	菅生早千江
	A265	学習者の「ね」を含むチャンクの使用頻度 —母語とレベルを手がかりに—	吉澤佑未
【語彙】	A266	「類義語辞典」の文体記述の検討 —日本語コーパス BCCWJ に基づく文体値の観点から—	井上次夫
	A267	日本語の連語表現における語の結合度に関する調査 —中国語を母語とする学習者と日本語母語話者の比較を通して—	卓孟昭
	A268	書き言葉均衡コーパスを活用した文体的特徴を持つ語の分析と記述の試み —アカデミック・ライティング指導を例に—	木田真理
	A269	中国語母語話者に対するカタカナ語の聞き取りと意識調査 —語彙指導をめざして—	畑ゆかり
	A270	新聞コーパスに基づいた「広域コロケーション」抽出のためのソフト使用の工夫	田辺和子
	A271	初級教科書における多義語の使用実態—初級日本語語彙シラバス作成に向けて	秋元美晴
	A272	e-learning による日本語学習の効果的な導入法の考察 —学習履歴の分析から—	稲葉みどり
	A273	現代日本語文章理解に不可欠な有名語句の調査 —調査の方向付けに向けて—	中道知子
【文法】	A274	江副文法の分類と体系化の試み	大山シアノ
	A275	初級文法項目の「文脈化」・「個人化」指導 —教科書を開けない初級授業—	川口義一

*共同発表者名は人名索引でお調べください。

【文法】	A276	ト条件文の帰結に現れる「～たい」「欲しい」—正誤判断のゆれに着目して—	小竹直子
	A277	様態の「そう」の指導法改善	前原かおる
	A278	文法項目の主観判定による6段階レベルづけとその応用	堀恵子
【語用】	A279	配慮表現からみた授受構文の発話機能について	朱ヒョンジュ
	A280	「とのこと」による提題—遂行文の観点から—	大西美穂
	A281	「～ておく」が和らげになる語用論的要因	中西久実子
	A282	ソ系応答詞と対人配慮	大和啓子
	A283	文末に現れる接続助詞の日韓対照—「が、けど」と「NUNTEY」,「CIMAN」を中心に—	大友沙樹
【談話】	A284	多人数接触場面におけるからかいと収束	藤浦五月
	A285	反復練習におけるマルチモダリティ—学習者は教師のどんな行動をキューと捉えるのか—	下谷麻記
	A286	「冗談としての自己卑下の肯定」に見る「共-成員性」の可視化—出会いから半年後の留学生と日本人学生の会話データをもとに—	今田恵美
	A287	母語が異なる他者との協調的問題解決過程の分析—「ハノイの塔」課題を用いて—	瞿葉菁
	A288	初対面における日韓ほめについての対照研究—会話分析によるアプローチ—	張承姫
【音声】	A289	課題達成談話における共通の認知フレームの構築プロセス—接触場面での会話参加者の役割の異なりの影響—	鹿嶋恵
	A290	自己モニターを活用した音声教育における発音チェック	河野俊之
	A291	日本語話し言葉コーパスに現れた助数詞のアクセントについて—「～つ」を中心に—	田川恭識
	A292	初級日本語学習者へのスピーチ指導—ポーズを視点に—	高村めぐみ
	A293	中国語母語話者のための日本語の撥音・長音研究について—中国語の「-n」音と「-ng」音を活用して—	汪南雁
	A294	視覚的補助を用いた特殊指指導の効果—学習スタイルの有効活用を目指して—	柳澤絵美
	A295	疑問文のイントネーション—ノダ文を中心に—	畑由美子
	A296	日本人教師とロシア人教師による発音評価	渡辺裕美
【文字】	A297	漢字の学びを創造し参加する—漢字ブログプロジェクト実践分析	佐野香織
	A298	日本語の漢字力のCDSによる評価について	加納千恵子
	A299	苦手意識を持つ漢字語彙学習者のためのレベル別教材と学習法—自学自習オンライン教材を活用して—	印道緑
	A300	中国語を母語とする日本語学習者の仮名漢字変換入力における言語処理—fNIRSによる脳血流測定法を用いた研究—	梁志鋭
【異文】	A301	大学の多言語・多文化クラスにおける留学生・日本人学生の経験	池田智子
	A302	日本文化授業の実態とその適応方案—韓国釜山地域の中高等教育と高等教育を中心に—	金世連
	A303	プレゼンテーションで学ぶ日本の社会—学部1年留学生を対象とした実践から—	尾崎ちえり
	A304	韓国の大学の日本語学習者による文化とアイデンティティの再考	嶋津百代
	A305	ビクターセッション参加者の意識の変容—学習者との相互交流は日本人協力者に何をもたらすのか—	本田明子
	A306	複眼的思考力を養う「座談」の展開—知の枠組みを問い直す大学授業—	吉野文
	A307	日本語学習プログラムにおける地域参加型プロジェクト—過去三年間の実践報告—	西俣貴幸
	A308	現代の女子大学生が考える対人距離についての一考察—近接学の立場から—	廣内裕子
	A309	日本語教育の現場における異文化間コミュニケーション、コンフリクトとその対策	浜田昌子
	A310	JFL学習者のインターネット利用と日本の大衆文化視聴—トリニダード・トバゴにおけるアンケート調査結果より—	川崎崎つづら
	A311	「居場所」としての留学生支援システム—「わせた日本語サポート」における留学生と支援スタッフの取り組み—	小針奈津美
第2会場 (2階ロビー)			
【読む】	A321	「わかったつもり」の読みをどのように破壊させることができるか—中級日本語学習者対象「クリティカル・リーディング」の授業実践における一例から—	杉山春華
	A322	ピア・ラーニングの応用—タイ人日本語学習者や日本語教師はどのように受け取っているか—	スニーラット・ニャンジャロンスック
	A323	中級読解における要点関係図作成活動と要点選択活動の効果の比較	田川麻央
【聞く】	A324	台湾人中級日本語学習者の文の聴解における漢字想起教示の効果—同根語・非同根語の観点から—	陳怡卉
	A325	音声知覚トレーニングのためのディクテーション課題の検討	小河原義朗
	A326	聴解クラスにおける中級初期から上級にかけての数字の聞き取り指導に関する報告	田中孝始
【書く】	A327	台湾日本語作文指導にピア・レスポンス導入の可能性—グランデッド・セロリー・アプローチの分析により—	楊姍燁

*発表者名:筆頭発表者のみ記載 *発表分野:発表者による希望審査分野に基づく(一部,内容により分野の変更あり)

【書く】	A328	中国人学部留学生の文体運用ストラテジー	永岡悦子	
	A329	対人性・場面性への気づきを重視したライティング教材の開発	由井紀久子	
	A330	ベトナム人日本語学習者の文章に見られる視点 —日本語母語話者との比較—	カム ニュン・レ	
	A331	学習者コーパスと大規模正用コーパスを利用した作文支援システムの構築	八木豊	
	A332	「構成要素」のラベルづけによるレポート作成指導法	脇田里子	
	A333	簡略画文法を用いた手書き漢字の誤筆解析	三輪譲二	
【話す】	A334	日本語パブリックスピーキング入門としての「ビプリオバトル」導入の試み	李セロン	
	A335	ホームページを活用した初級日本語会話授業の試み —台湾の大学の場合—	呂惠莉	
	A336	外国人日本語話者のパブリックスピーキングに関するニーズ調査	ヒルマン小林恭子	
	A337	中級レベルにおけるビジターセッションの意義と問題点 —立命館アジア太平洋大学のケースから—	寺嶋弘道	
	A339	交流会話のための中級会話授業の試み —香港専業進修学院を例に—	赤城永里子	
【教室】	A340	海外における新しい「教室」構築の試み	由志慎	
	A341	韓国における大学生日本語ディベート大会実現に向けての取り組み	諏訪昭宏	
	A342	初級漢字授業における電子黒板の活用効果の分析 —視線集中の効果に着目して—	佐藤弘毅	
	A343	韓国高等学校における日本語授業の実状と課題 —韓国・高校教員の現場からの報告—	中川彰人	
	A344	美術・デザインを素材にした教室活動	熊野由佳里	
	A345	日本での生活・日本語学習のポートフォリオを作る —対話からはじめる日本語教室活動の試み—	塩谷奈緒子	
【教室】	A346	form-focused instruction の観点から見た台湾の会話授業 —授業形態、指導現状、コミュニケーションへの影響を中心に—	鄭立民	
	A347	日本語学習と文化理解の関連付けを目指した短期訪日研修の試み	黒田類	
	A348	「みんなの『Can-do』サイト」を利用した能力記述文の作成 —各教育現場に合わせた「MY Can-do」—	篠原亜紀	
【教材】	A349	在日ブラジル人児童を対象としたインフォーマルラーニング教材の開発 —デジタル日本語教材「にほんごまなぼう！」—	高橋薫	
	A350	アカデミックな日本語力養成を目的とした中級教材開発 —基礎調査からテーマ選定までのプロセス—	大津友美	
	A351	「地域社会により順応するための方言教材」の開発	和田礼子	
	A352	工学系話し言葉コーパスによる学習語彙用例集検索ツールの構築 —工学系留学生のモニター調査より—	森幸穂	
	A353	マンガ教材を使ったビジネス日本語授業の実践例 —「マンガで学ぶ日本語表現と日本文化 多辺田家が行く！！」を使って—	武田聡子	
	A354	大学で学ぶ留学生を対象とした社会科学系分野におけるマルチ・メディア教材開発の試み	野田岳人	
	A355	学習者の経験と視点を取り入れた教材の開発 —留学生用のケース教材集開発のプロセスから—	宮崎七湖	
	A356	母語話者と海外の学習者による同期型遠隔授業の活用方法 —その学習効果と授業成立要件を探る試み—	藤村知子	
	A357	中国語母語話者のための漢字音教材開発 —入声音を含む漢語を中心に—	黒沢晶子	
	A358	日本の大学における日本語教育・学習支援プラットフォームの開発 2 —利用の実態調査とその評価—	難波康治	
【教材】	A359	中上級レベル語彙教材における選択課題の類型 —認知負荷の観点から—	小林由子	
	A360	初級教科書に埋め込まれた文化 —文化的「所産・産物」の分析の試み—	伊藤誓子	
	A361	推測力・運用方法・運用力を養う教材の効果 —語彙の広がり意識調査の結果から—	木下謙朗	
	A362	戦時期『台湾日日新報』の新聞広告に見る表現構成 —日本語と視覚表現の視点から—	落合由治	
	A363	既習者のためのカリキュラム再考	金秀英	
	【其他】	A364	日本語教育における論文検索 —国立国語研究所「日本語研究・日本語教育文献データベース」—	渡辺由貴
		A365	NPO 法人 JAFSA は大学の国際化における日本語教育部門に対して何をなすべきか	高田幸詩朗
		A366	日本語教育研究方法の実態調査 —経験的研究と統計分析—	Chris SHEPPARD

* 共同発表者名は人名索引でお調べください。

ポスター発表 第3セッション (15:40-17:40)
 〈奇数番号 15:40-16:40 偶数番号 16:40-17:40〉

第1会場 (シンポジオン)			
【評価】	A401	ジャーナルアプローチによる協働的教室活動に対するアセスメント —中国母語話者学習者の事例研究より—	原田三千代
	A402	日本語教育プログラムにおけるエンパワメント評価の実践報告 —3ステップ・アプローチの実践—	鎌田倫子
	A403	日本文化クラスにおける内省活動導入の試み —「Japanese Traditional and Popular Culture」クラスにおける実践からの考察—	中濱晴美
	A404	複数のデータを用いた日本語教育実習プログラム評価の実践報告	三枝優子
	A405	韓国の大学入学試験における日本文化の位置づけ	金庸珏
	A406	「日本語を読むための語彙量テスト」の開発	松下達彦
	A407	ベトナムの日本語教育における日本語教育スタンダードの応用	Nguyen Thi Minh Huong
	A408	漢字・語彙・文法の到達度テスト実施報告 —テスト分析を経た改善への取り組み—	西嶋千恵
【年少】	A409	国際教室担当教員が持つ「子どもの母語の使用」に対する意識	高梨宏子
	A410	年少者 JSL 児童の学力の基礎となる日本語能力の育成 —リライト教材及び LEA 手法による指導からの考察—	島田友絵
	A411	台湾在住の台日国際児の日本語習得に関する事例研究 —5名の縦断的研究から—	服部美貴
	A412	外国人児童の作文能力に関する縦断調査 —4年間の「出来事作文」の計量的分析を通して—	齋藤ひろみ
	A413	香港の年少者日本語学習をめぐる動機付け —「学びへのこだわり」と「言語資本」を手がかりに—	野村和之
	A414	小学校教科書コーパスの構築 —構築手順と活用法—	真島知秀
	A415	マレーシア補習授業校における教育支援の継続要因とその動機づけに関する調査	川上晃子
	A416	日本語・教科学習活動における支援者の障壁克服のプロセス —ある中国にルーツを持つ子どもとの関わりから見えたもの—	菅田陽平
	A417	帰国生徒の日本語教育における作文指導の事例 —論述文を書くことによる学習言語発達の可能性—	加藤淳
	A418	台湾の中学校のクラスにおける日本語教育実習の実践研究 —アクション・リサーチを取り入れた一試み—	陳淑娟
	A419	日本語教員養成コースにおける大学生の年少者日本語教育から得た認識 —「自分は何ができるのか」に関する内省の考察—	池田広子
【生活】	A420	外国人の社会参加と地域日本語教育 —にほんご・A語クラブにおける外国人参加者の変容から—	田中美穂子
	A421	ボランティアは「日本語を教える」ことをどう捉えているのか —ある地域日本語教室でのインタビューを通して—	上原龍彦
	A422	社会参加につながる日本語学習活動の特徴 —初学者の日本語学習活動に必要な要素とは—	品田潤子
	A423	ボランティア活動に参加する定住外国人女性の自己認識 —インタビュー調査の質的分析より—	徳永あかね
	A424	子どもを持つ在住外国人が必要とする日本語に関する一考察 —「生活のための日本語」浜松調査・広島調査の分析から—	須賀和香子
	A425	生活者同士の交流を目的とした「日本語活動」は日本語教育と呼べるか —異なる分野の教師間でおこなった省察から—	福村真紀子
【専門】	A426	名古屋大学日本法教育研究センターにおける日本語教育	佐藤綾
	A427	心身の状態表現の誤用分析 —医療従事者のグローバル化に向けて—	吉永尚
	A428	基礎的な思考力の育成を目指す教材開発の必要性	西隈俊哉
	A429	モダリティにみられる日本人学生の意識の変容 —専門日本語教育における日本人学生と留学生とのピア活動を通して—	神村初美
	A430	留学生の就職活動を支援するための日本語教育の実践	梅田千砂子
【教師】	A431	「日本語+X」専攻養成パターンについて —広東省旅遊学校の実践を例に—	何建軍
	A432	日本語教育能力に関する大学生の自己評価 —国語専攻とそれ以外の専攻の比較—	濱島秀樹
	A433	学習者との関係作りに関する日本語教師の実践的知識 —インドネシアの高校教師を対象に—	佐藤礼子
	A434	420時間日本語教師養成講座修了生の追跡調査 —PAC分析を用いた縦断的事例研究—	佐々木良造
A435	わかりやすい日本語の使用を支援するシステム開発とそれによる日本語母語話者の気づきについての考察	伊藤(横山)美紀	

*発表者名: 筆頭発表者のみ記載 *発表分野: 発表者による希望審査分野に基づく (一部、内容により分野の変更あり)

【教師】	A436	「越境のための日本語」の実践について考える —日本語教育実習生へのインタビューから—	菊岡由夏
	A437	韓国経験日本語教師が考える「いい日本語教師」の要素を探る —PAC分析からの抽出—	坪根由香里
	A438	アクション・リサーチの手法を取り入れた専門職大学院教育実習の試み	杉山朗子
	A439	日本語教師の発音指導に関するピリーフ —韓国の大学における韓国人教師と日本人教師を対象に—	李玟兒
	A440	持続可能な共生社会を目指す日本語教員養成の試み —私とあなたと世界をつないでいく過程—	トンプソン (平野)美恵子
	A441	ウェブ上での情報公開による教師支援の試み —現場に合わせた教材のカスタマイズの実例を通して—	石井容子
	A442	外国人日本語教師のためのポートフォリオの開発 —海外日本語教師研修教授法科目での運用—	濱川祐紀代
	A443	留学生支援活動による支援スタッフの教育観の意識化と形成の意味 —「わせた日本語サポート」の自己エスノグラフィーの分析を通して—	覃岳鋒
A444	海外教師会によるノンネイティブ日本語教師短期訪日研修の評価と改善	スニーラット・ ニャンジャロー ンスック	
【社会】	A445	「日本のポップカルチャー」に興味がある非日本語学習者の日本との関わりプロセス —カタールQ大学「日本クラブ」所属学生へのインタビュー調査から—	根本愛子
	A446	震災後の日本で留学を継続する判断要因 —留学生へのインタビューを通して見えてきたこと—	小笠恵美子
	A447	娯楽と消費としての外国語学習 —趣味として日本語を学ぶ香港の一事例—	瀬尾匡輝
	A448	日本語教育振興法案骨子の未整理項目から見えてくるもの —新たな展開の可能性—	今村和宏
	A449	共起語から見る『日本語教育』の「コミュニケーション」 —隣接領域との比較から—	黒崎佐仁子
	A450	義務教育課程と関連する日本語教育政策 —学習権の保証の観点から—	宮崎里司
	A451	「男ことば」「女ことば」の使用における意識調査	太田宗
【習得】	A452	中国人日本語学習者による動詞複合体の習得における構造の複雑性、難易度及び学習期間の影響	初相娟
	A453	在仏日本語学習者の学習・使用の体験とその意味づけ —ライフストーリー・インタビューを通して—	山内薫
	A454	日本語学習者による動詞「する」の使用状況 —コロケーションに着目して—	鈴木綾乃
	A455	中国人日本語学習者の日本語学習の動機づけについての考察	姚艶玲
	A456	発話模倣能力とL2音声の知覚・生成の関係 —成人韓国語話者と中国語話者の日本語発話に見られる外国人訛りを中心に—	金菊熙
	A457	音声学習の動機づけとグループ活動に関する事例的考察	須藤潤
	A458	漢字圏学習者の作文作成時における漢語の使用	吉田雅子
	A459	留学生の日本語学習に対する意識 —中国人女子留学生の場合—	升岡香代子
	A460	JFL環境で学ぶ日本語学習者にとっての縮約形とは —使用意識の形成要因と学習意欲に着目して—	小針奈津美
	A461	中国語母語話者による日本語の漢字語の使用と習得 —言語の知識に注目して—	郭毓芳
	A462	日本語学習者はどのように品詞認定を行っているか	大坪優
【語彙】	A463	習得困難な日中同形異義語について —中国人日本語学習者を対象として—	周聞
	A464	ビジネス日本語における漢字及び漢字語彙に関する考察	湯瑾
	A465	中国人日本語学習者の音象徴語の理解	飯田香織
	A466	動詞「見る」の多義構造の意味変化のメカニズム	李炫淨
	A467	語彙連想に統語情報は影響するのか —日本語と英語の場合—	小森早江子
	A468	日本語の複合動詞に対応する中国語・韓国語のパターンに関する考察 —日本語教育の観点から—	金蘭
	A469	日本語学習者の語彙知識の多面性 —母語、学習環境、および、語項目による影響—	堀場裕紀江
	A470	連体詞「大きな」「小さな」「おかしな」が持つ叙述性	劉善鈺
	A471	単語の意味推測の効果 —中国大学日本語専攻課程の総合日本語授業における実践—	曲曉燕
【文法】	A472	あいまいな文章を避けるための一案 —「なんか」と「なんとなく」を参考に—	結城佐織
	A473	いわゆる説明の「と」について —「四週連続1位と絶好調だ」における「と」の解釈—	菊池律之
	A474	キャラクターと文法 —ナルトの提題表現「ってば」の用法を中心に—	朽方修一
	A475	道案内における名詞文「条件節、Nだ」の機能 —存在文との対比を通して—	久保田一充
【語用】	A476	社説における接続表現の共起使用の実態と文脈展開パターン —「そこで」と共起する接続表現に基づいて—	王金博
	A477	インタビューの中で「私は」が表わしている意味	張希朱

*共同発表者名は人名索引でお調べください。

【語用】	A478	中国語母語話者にとっての困難なポライトネス理解・容易なポライトネス理解 —ビジネス場面スキットの台本作成における分析を通して—	橋本拓郎
	A479	介護現場の入浴場面における「介助者—利用者」会話の語用論的分析 —同性同士と異性同士の比較を通じて—	古田朋子
	A480	社会言語学から見た緩叙法的な「ちょっと」	黎秋虹
	A481	グループ討論の対立場面における意見表明発話の分析 —中日接触場面と中国語母語場面の比較から—	楊虹
【談話】	A482	留学生は普段どんな「言葉」を使っているか —日記調査法と録音機を併用した言語使用実態調査の試み—	橋本洋輔
	A483	勧誘に対する断りの談話構造 —再勧誘に注目して—	田中真衣
	A484	日本語母語話者の雑談における話題のコロケーション —美容院での談話データを使用して—	増井奈穂美
	A485	独話における終助詞「ね」の使用実態	志賀玲子
	A486	日本語非母語話者が始めた他者開始修復 —母語話者開始との差異を探る—	初鹿野阿れ
	A487	文脈指示の「この」「その」の選択に関する一考察	梅木俊輔
【音声】	A488	発音習得 —既知語のリズムが及ぼす未知語への影響—	木下直子
	A489	日本語アクセント習得のためのシャドーイング実践 —日本語学習者におけるレベル差の観点から—	大久保雅子
	A490	アクセント核と重音節の位置関係が促音の知覚に及ぼす影響 —英語母国語話者の場合—	石澤徹
	A491	韓国人教師に対するシャドーイング実践報告 —シャドーイングで何が変わるのか—	高橋恵利子
	A492	韓国人日本語学習者の音声における句末イントネーション —上級学習者の句末イントネーションの実態—	金瑜真
	A493	ハングル表記に対するピリフが韓国人日本語学習者の発音に与える影響 —日本語破擦音/ザ//ゾ//ツ//に焦点をあてて—	全娟妹
【文字】	A494	非外来語のカタカナ表記 —『中納言』検索および日本語教科書についての調査から—	黎婉珊
	A495	米国大学生のための漢字学習法を再考する —非漢字圏学習者による非漢字圏学習者のための新漢字学習法をめざして—	岸本俊子
	A496	漢字部品の出現頻度の日本語母語話者と日本語学習者の漢字処理に及ぼす影響 —視線計測装置を用いた研究—	野波幸希
	A497	中国（大陸）の学生を対象とする漢字教育について —日中の字形が微妙に違う文字はどう教えるのか—	賈智
【異文化】	A501	留学生と日本人チューターのミス・コミュニケーション回避について	堀尾佳以
	A502	日本の医療現場における中国人看護師とコミュニケーション —病院赴任直後の言葉の問題を中心に—	石原美知子
	A503	日本語非母語話者の発話スタイルの特徴と課題 —外国人散在地域の定住外国人の縦断 OPI データから—	野山広
	A504	フィリピン人介護職員へのコミュニケーション教育に係る法人での取り組みの現状と課題 —“つながり”を築くコミュニケーション教育の模索—	山田貴将
	A505	海外日本語学習者と日本人学生の協働による異文化理解活動	宇都宮絵里
	A506	聴覚障害留学生のニーズに合わせた「日本事情」	細谷美代子
	A507	ビジネス日本語における日本人・外国人の相互異文化コミュニケーション教育	堀井恵子
	A508	技術職を目指す留学生の就職活動について —内定者に対するインタビュー調査結果報告—	古本裕子
第2会場 (2階ロビー)			
【読む】	A521	日本事情科目における新聞・雑誌・書籍記事についてのポスター発表を通じた情報の受信発信 活動の試み	大島弥生
	A522	日本語学習者のアイデンティティは読解教材から連想するイメージにいかにも現れたか —PAC分析法を活用した留学前・中・後の縦断研究から—	小澤伊久美
	A523	非漢字圏初中級学習者の読みのストラテジー —小説における表意文字としての漢字利用を中心に—	熊田道子
	A524	保育園の連絡ノートを読むために必要な語彙・表現についての一考察 —保育士側からの連絡部分の分析から—	桑原陽子
【聞く】	A525	言語景観としての店内アナウンス —日本語教育への示唆—	ソーリアル直子
	A526	日本語能力試験における聴解問題の解法のポイントを探る —対策本の「課題理解」の分析を通して—	坂本勝信
	A527	感動詞の音例集作成のためのラベルセットの構築	新井潤
【書く】	A528	小論文作成を通じた高校生向けキャリア教育 —国際基督教大学高等学校のライティングセンターにおける試み—	仲島ひとみ
	A529	Bレベル学習者の書く能力を高めるための“カギ” —B1・B2学習者の作文の分析を手がかりとして—	古川嘉子

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

【書く】	A530	上級日本語学習者の作文へのフィードバックの検討 —複数の日本語話者の作文提示が与える影響—	加藤理恵	
	A531	韓国人日本語教師に対する自己表現力を高める文章表現研修の検証 —TAE ステップによる質的研究法を用いた研修生所感の分析から—	樋田和美	
	A532	論作文における中国語母語話者の誤用傾向とその指導	飯嶋美知子	
	A533	大学生はレポートでどのような文型を用いているか —日本語文型辞典に基づく意味機能別リストからみた文型使用傾向—	木戸光子	
	A534	日本語中級学習者の作文は文単位で関連性を保っているか —予測の観点からの分析—	藤井明子	
	A535	指示表現に関する日本語学習者および母語話者の作文コーパスの分析	坂口清香	
【話す】	A536	日本語らしい発音に向けての一考察 —アクセント習得に見られる学習者訛りの実証研究から発音教育への示唆—	坂本恵美	
	A537	談話における確認表現の「じゃないか」 —『女性のことば』『男性のことば』のデータから—	金庭久美子	
	A538	日本語教育における終助詞の指導に関する一考察 —日本語学習者の会話データと母語話者による印象評価の結果をもとに—	木曾美耶子	
	A539	日本語使用に対する心理的バリアをいかに崩すか —アクティブ・ラーニングプログラムからの考察—	住田環	
	A540	〈実践報告〉音読アプローチを取り入れた会話指導 —自律学習によるスピーキング能力向上を促す試み—	小松麻美	
	A541	1分間の映像作品を用いた実践 —動機付けと語彙習得の観点からみる効果—	岩下智彦	
【教室】	A542	ポッドキャスト制作活動を通じた日本語教育の試み —中国の大学における日本語専攻の学生を対象に—	守屋久美子	
	A543	学習者のコミュニケーション観の意識化を促すことの重要性 —「ありがたい自分」の実現を支援することのつながり—	徳間晴美	
	A544	初級前半クラスにおけるインターネットを利用した表現活動 —振り返りアンケート調査から見る「日本語かきこ」—	水上弘子	
	A545	コメントの教育に問われることは —日本語教育実習のコメントからの思考—	黄均鈞	
	A546	「日本と自分を結ぶ」ことの意味 —フランスの大学生との Web による教育実践から—	武藤理恵	
	A547	冬期日本語・日本文化集中プログラムにおける音声教育実践報告	神田義太	
	A548	課題解決型グループワークにおける「深まり」を可能にする環境 —コミュニケーション主体の相互行為の観点から—	李址遠	
	A549	アウトプット活動を取り入れた日本語古典文法の授業 —大学日本語科の日本語古典文法の授業における「擬古文作文」の効果と問題点	掛本繭子	
	A550	学習者は媒介語をどのように考えて使用しているのか —学習者へのインタビューと教室談話の分析から—	仲野美佐子	
	【教材】	A551	「台湾人日本語学習者コーパス」(CTL) に基づいた e ラーニングコンテンツの制作と応用	黄淑妙
A552		「コロケーション」の指導のあり方 —教材に見るコロケーションの扱いを通して—	山口久代	
A553		Moodle を用いた日本語初級クラスの実践例 —自作マルチメディア教材の効果的な提示方法—	渡邊靖史	
A554		文法学習とリンクした指導のしやすい漢字教材 —漢字圏学習者にも対応した柔軟な初級用漢字教材の開発—	二村年哉	
A555		ウェブを用いた日本語の音韻とカタカナ語(外来語) 習得システム	大谷晋也	
A556		日本語学習者は絵本で何が学べるか	守山恵子	
A557		デジタル教材を使った日本語教育の可能性	山田智久	
A558		中級におけるイラストの効果的な使い方 —中級文法授業においてイラストを使用して N2・N3 レベルの文法を導入する際の方法—	川端葉子	
A559		WEB 教材の多言語化とその効果に関する一考察 —WEB 版「エリンが挑戦! にほんごできます。」のアクセスログとアンケート調査を中心に—	羽吹幸	
A560		映画『Dolls』を使った中級日本語授業の展開	渡邊知积	
A561		Web サービスを用いた日本語自主学習教材の作成 —「Google サイト」の活用事例—	杉本巧	
A562		Can-Do 中心の新しい日本語教科書 —『まるごと 日本のことばと文化 活動編』—	来嶋洋美	
A563		渡日前日本語学習課題による留学生のレディネス形成の試み —e ラーニングを利用したインターアクティブな学習環境の構築—	毛利貴美	
A564		日韓・韓日辞書の改善すべき問題点について —日本語の副詞の学習・指導に役に立つ辞書(ハンドブック) 制作の試み—	尹惠珍	
A565		検索リソースの現状に対する問題提起	相川弓映	
【教史】		A566	学習者から見た台湾日本語教育のアーティキュレーションの現状 —中等教育から高等教育へ—	劉盈孜
		A567	ニカラグアにおける日本語の学習ニーズ調査	松岡英輔

* 共同発表者名は人名索引でお調べください。

パネルセッション一覧

会場1～6：全学教育棟
会場7～11：IB 電子情報館

会場	教室	9:00-11:00	11:20-13:20
パネ1	C13	B01: 落語がわかるということ (酒井)	B02: アーティキュレーションの確立 (春口)
パネ2	C15	B05: 多様な学習者と教師の居場所 (森岡)	B06: 学習者, 日本語教師の多様化 (柳田)
パネ3	C25	B09: 文章表現の分析と読解教材の作成 (野田)	B10: 大学の日本語教育の「内容」を問う (小山)
パネ4	S2X	B13: 医療日本語研究からの提言 (大須賀)	B14: 「生活者としての外国人」の能力評価 (北村)
パネ5	C35	B17: 「実践研究」とは何か (三代)	B18: 質的研究と日本語教育 (上條)
パネ6	C43	B21: 多言語多文化環境の創造 (春原)	B22: 現場日本語教師主体のプログラム評価 (古川)
パネ7	IB011	B25: web ツール用例文検索システム (堀)	B26: コーパスを用いた文法研究 (中俣)
パネ8	IB013	B29: 日中協働プロジェクト『新界標日本語』の開発 (徐)	B30: インドネシア中等日本語教育の現状 (松本)
パネ9	IB014	B33: アジアの中等教育 (藤長)	B34: トロント補習授業校の日英作文力 (佐野)
パネ10	IB015	B37: ビジネス日本語の新たな学習デザイン (近藤)	B38: グローバル人材への継続日本語教育 (藤本)
パネ11	IB 大講義室		B41: 3.11 を (通して) 何を学ぶのか (クレア)

口頭発表一覧

すべて全学教育棟

会場	教室	第1セッション			第2セッション		
		9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10
口頭1	C10	C001 蟹江美	C002 柴田智	C003 村澤慶	C004 高橋恵	C005 丁愚錫	C006 梁辰
口頭2	C11	C013 朴智淑	C014 早坂直	C015 福永由	C016 稲垣亮	C017 郭銀心	C018 田中里
口頭3	C14	C025 長谷川	C026 小山慎	C027 金允喜	C028 櫻坂英	C029 横田葉	C030 戎谷梓
口頭4	S10	C037 房賢嬉	C038 原田登	C039 北出慶		C041 松井久	C042 クリス
口頭5	S11	C049 立川真	C050 横山由	C051 渡邊則	C052 ガリー	C053 プシマ	C054 兒島慶
口頭6	S12	C061 ウォー	C062 大山理	C063 本郷智	C064 斎藤里	C065 椿由紀	C066 渋谷実
口頭7	S13	C073 朴恵美	C074 花村嘉	C075 丸山真	C076 鈴木智	C077 中澤一	C078 羅安碧
口頭8	S14	C085 李榮	C086 吉川達	C087 高橋李	C088 今村和	C089 オーリ	C090 山方純
口頭9	S15	C097 高橋純	C098 山元一	C099 山田葵	C100 宇佐美	C101 賈琦	C102 季珂南
口頭10	S16	C109 加藤由	C110 中村伊	C111 張麗琚	C112 王珠恵	C113 加藤敬	C114 孫曉英
口頭11	S1X	C121 小野塚	C122 梁超	C123 鈴木伸	C124 村岡貴	C125 山本富	C126 宮副ウ
口頭12	C20	C133 岩崎瑠	C134 モンシ	C135 陳帥	C136 馬場典	C137 坂口頼	C138 梶川克
口頭13	C21	C145 小山信	C146 大内薫	C147 古田島	C148 劉善鈺	C149 渡邊ゆ	C150 黄慧
口頭14	C23	C157 川上郁	C158 佐々木	C159 佐々木	C160 矢崎満	C161 米本和	C162 内海由
口頭15	S20	C169 福岡昌	C170 S. ドル	C171 田中美	C172 櫻本る	C173 鄧曉梅	C174 陳建璋
口頭16	S21	C181 小柳津	C182 平松真	C183 武藤佐	C184 藤田裕	C185 脊尾泰	C186 楠元景
口頭17	S2Y	C193 王冲	C194 アヌブ	C195 堀内仁	C196 簡卉雯	C197 蓮池い	C198 孫成志
口頭18	C30	C205 中山英	C206 川村よ	C207 堀越和	C208 保坂敏	C209 田中望	C210 白井直
口頭19	C31	C217 宮崎恒	C218 陳月娥	C219 田中祐	C220 由井紀	C221 熊谷由	C222 嶋田和
口頭20	C33	C229 池田佳	C230 金鍾熙	C231 加藤由	C232 池原明	C233 入戸野	C234 野口潔
口頭21	C34	C241 中井好	C242 林長河	C243 西谷ま	C244 足立祐	C245 牛田英	C246 辺晴
口頭22	C40	C253 展艶	C254 陳昭心	C255 塩入す	C256 李在鎬	C257 萩原章	C258 小柳昇
口頭23	C41	C265 木下り		C267 畢春玲	C268 久我瞳	C269 中野仁	C270 楠本徹
口頭24	C42	C277 荻原稚	C278 李孝滢	C279 藤原安	C280 劉桂萍	C281 伊藤奈	C282 吳昊

13:40-15:40	16:00-18:00	教室
B03: 明示的知識, 暗示的知識 (坂本)	B04: 思考力・理解力を高める実践活動 (羅)	C13
B07: 日本語教師の成長を支えるもの (館岡)	B08: 「学習者主体」を実現するには (文野)	C15
B11: 研究型大学院大学のカリキュラム (三牧)	B12: アカデミック・ジャパニーズ教育 (因)	C25
B15: 地域日本語教育の担い手の専門性 (堀)	B16: 外国人介護人材育成 (中島)	S2X
B19: 実践の共有化のあり方 (吉峰)	B20: 対話原理に基づく基礎日本語教育 (西口)	C35
B23: ことばの教育の連携 (1) (佐藤)	B24: ことばの教育の連携 (2) (奥泉)	C43
B27: 日本語教育における「言語学」(山口)	B28: 日本語教育のコーパス (ブラシャント)	IB011
B31: 文章・談話の構造分析 (山崎)	B32: 会話データ分析の社会的貢献 (中井)	IB013
B35: 中国の中学校における日本語教育 (加納)	B36: 母語を活用した学習支援 (清田)	IB014
B39: 米国立立大学での動機付け (竹内)	B40: バイリンガル教師の課題 (佐々木)	IB015
B42: 「グローバル人材」育成手段 (平畑)		IB 大講義室

* タイトルは発表タイトルを略したものです * 一部、予稿集に発表要旨が掲載されていないものがあります

※ パネルセッション一覧・口頭発表一覧の発表タイトルと、予稿集発表要旨の発表タイトルや当日の配付資料等のタイトルが一致していない場合は、本プログラムに掲載されているタイトルが正式タイトルです。

(異文: 異文化コミュニケーション 語用: 語用論 日本: 日本研究 生活: 生活者 年少: 年少者 専門: 専門日本語 教史: 教育史 其他: その他)

第3セッション			第4セッション			教室	分野
13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50		
C007 伊藤舞	C008 奥村匡	C009 井上美	C010 蘇迪亜	C011 大川英		C10	音声/其他
C019 張麗	C020 権恩熙	C021 倉持益	C022 笹川洋		C024 岡田憲	C11	社会
C031 藤岡典	C032 島本雅	C033 西村史	C034 崔殷熾	C035 崔春福	C036 朴美貞	C14	異文
C043 孟慶栄	C044 長友和	C045 林圭介	C046 木下藍	C047 小川都	C048 小室リ	S10	異文
C055 横山詔	C056 半沢千	C057 江秀姿	C058 蒔田雅	C059 鈴木照	C060 阿栄娜	S11	異文/文字/聞く
C067 船橋瑞	C068 濱屋方	C069 金漢植	C070 黄英哲	C071 古賀万	C072 横溝紳	S12	話す/其他
C079 鎌田美	C080 田中信	C081 嶋津百	C082 新沼雅	C083 近藤行	C084 陳君慧	S13	書く
C091 千花子	C092 向山陽	C093 甲田直	C094 金東奎	C095 施信余	C096 小玉安	S14	読む/談話
C103 許明子	C104 方穎琳	C105 吉田睦	C106 李明熙	C107 花村博	C108 曹英南	S15	談話
C115 小川誉	C116 上田崇	C117 泉生	C118 酒井順	C119 安志英	C120 畑澤桂	S16	専門/教史
C127 児崎静	C128 孫守峰	C129 近藤純	C130 田中典	C131 福島智	C132 TRAN	S1X	専門/語彙
C139 後藤美	C140 何龍	C141 小森和	C142 李羽喆	C143 魏娜	C144 張楠	C20	語彙
C151 頼錦雀	C152 半田淳	C153 崔廷銀	C154 鈴木啓	C155 徐氷	C156 マルケ	C21	語彙/日本/年少
C163 深江新	C164 中東靖	C165 松永有	C166 庵功雄	C167 仲渡理	C168 永島恭	C23	年少/生活
C175 峯布由	C176 齊藤信	C177 Ahmed	C178 黄鈺涵	C179 高田悠	C180 望月通	S20	習得
C187 宮崎里	C188 友沢昭	C189 北澤美	C190 村上か	C191 今福宏	C192 藤原京	S21	習得
C199 小林安	C200 谷部弘	C201 楊元	C202 河住有	C203 阿部和	C204 寺朱美	S2Y	習得/評価/教材
C211 Gehrtz	C212 高倉あ	C213 Ali Vo	C214 門脇薫	C215 長友文	C216 蔡盛植	C30	教材
C223 西岡裕	C224 坂井美	C225 張芸	C226 吉田千	C227 筒井通	C228 牧野由	C31	教材
C235 立部文	C236 大塚薫	C237 原伸太	C238 張瑜珊	C239 杉本香	C240 大原哲	C33	教室
C247 Wiwik	C248 大野陽	C249 秋山佳	C250 韓金柱	C251 鴛海芙	C252 山内美	C34	教師/文法
C259 山上聡	C260 蘇文郎	C261 郭世豪	C262 平出彰	C263 田中拓	C264 伊藤創	C40	文法
C271 劉怡伶	C272 國澤里	C273 宮澤太	C274 那波理	C275 呂雷寧	C276 荻原知	C41	文法
C283 鄭智恵	C284 呉岳樺	C285 SENA	C286 手嶋千	C287 碧碧蘭	C288 廣居美	C42	語用

* 一覧の名前は筆頭発表者の上から3文字を記載しています。 * 一部、予稿集に発表要旨が掲載されていないものがあります

パネルセッション 全学教育棟

会場	9:00-11:00	11:20-13:20
パネル1・C13	<p>落語がわかるということ —ことばと文化の側面から—</p> <p>酒井たか子 ブッシュネル・ケード 林家 染雀 ブランディソヴァー・シルヴィエ 関崎 博紀</p>	<p>求められる日本研究プログラムと日本留学をめぐる アーティキュレーションの確立に向けて</p> <p>—中国からの留学生獲得のために—</p> <p>春口 淳一 酒井順一郎 吉野 利雄 磐村 文乃</p>
パネル2・C15	<p>多様な学習者と教師の 居場所のある日本語教育をめざして</p> <p>—人をむすび学びがめぐる社会とは—</p> <p>森岡 明美 佐藤 慎司 佐野 香織 佐藤 玲子 郭 思好</p>	<p>学習者の多様化は日本語教師の多様化を招くか</p> <p>柳田 直美 古賀 和恵 牛窪 隆太 小林 ミナ 池上摩希子</p>
パネル3・C25	<p>文章表現の分析と学習者の読解困難点調査に基づく 読解教材の作成</p> <p>—グルメサイトのクチコミを読む教材を例にして—</p> <p>野田 尚史 桑原 陽子 播磨 涼子</p>	<p>大学の日本語教育の「内容」を問う</p> <p>小山 悟 森岡 明美 近藤 有美 川崎加奈子</p>
パネル4・S2X	<p>新しい専門日本語学習カリキュラムをめざして</p> <p>—医療日本語研究からの提言—</p> <p>大須賀 茂 奥田 尚甲 永井 涼子 石鍋 浩</p>	<p>「生活者としての外国人」の日本語能力評価をめぐる</p> <p>北村 祐人 米勢 治子 粕谷 浩二 入江 友理</p>
パネル5・C35	<p>「実践研究」とは何か</p> <p>—教育実践共同体構築の可能性—</p> <p>三代 純平 細川 英雄 市嶋 典子 古屋 憲章 武 一美</p>	<p>質的研究は日本語教育にいかに関与できるか</p> <p>—ステップ式TAEによるインタビュー分析を通じて—</p> <p>上條 純恵 近藤 朋子 得丸 智子 武田 牧人</p>
パネル6・C43	<p>地域社会における多言語多文化環境の創造をめざす 日本語教育と演劇・ワークショップ</p> <p>春原憲一郎 下館 和巳 吉野さつき 熊谷 保宏</p>	<p>現場日本語教師主体のプログラム評価の提案</p> <p>古川 嘉子 中河 和子 札野 寛子 小澤伊久美</p>
会場	9:00-11:00	11:20-13:20

13:40-15:40		16:00-18:00		会場
B03	<p>明示的知識, 暗示的知識, そして, 日本語教育へ</p> <p>—二つの教室内調査を基にして—</p> <p>坂本 正 小柳津成訓 藤田裕一郎 川崎 直子</p>	B04	<p>思考力・理解力を高めるための実践活動</p> <p>—TAE ステップ式手法導入の試み—</p> <p>羅 曉勤 陳 姿菁 許 均瑞</p>	パネル1・C13
B07	<p>日本語教師の成長を支えるものは何か</p> <p>館岡 洋子 ロマン・パシユカ 崔 鉉弼 鈴木 寿子</p>	B08	<p>「学習者主体」を実現するには</p> <p>—評価・支援の視点から見えてくること—</p> <p>文野 峯子 近藤 有美 松崎 遼子 工藤 節子</p>	パネル2・C15
B11	<p>研究型大学院大学における日本語カリキュラムの開発</p> <p>三牧 陽子 西口 光一 義永美央子 村岡 貴子</p>	B12	<p>アカデミック・ジャパニーズ教育の意義</p> <p>—日本語による研究の受信発信を通じて 身につく力は何か—</p> <p>因 京子 陳 俊森 李 吉録 マリーナ・カリュジノワ 佐藤勢紀子</p>	パネル3・C25
B15	<p>地域日本語教育の担い手に必要な専門性とは何か?</p> <p>堀 永乃 春原憲一郎 林 光洋 綾 美寿恵</p>	B16	<p>外国人相助活動による日本語教育が目指すもの</p> <p>—浜松における外国人介護人材育成を事例に—</p> <p>中島イルマ 西原 鈴子 佐々木 潤 堀 永乃</p>	パネル4・S2X
B19	<p>実践を記す・実践を伝える・実践から学ぶ</p> <p>—実践の共有化のあり方を探る—</p> <p>吉峰晃一朗 齋藤ひろみ 池上摩希子 浜田 麻里 文野 峯子 林 さと子 田中 哲哉 金田 智子 河野 俊之</p>	B20	<p>対話原理に基づく基礎日本語教育</p> <p>—理論と実践—</p> <p>西口 光一 滝井 未来 義永 美央子 岡崎 洋三</p>	パネル5・C35
B23	<p>ことばの教育の連携 (1)</p> <p>—ことばの教育の領域と多様性の問題を考える—</p> <p>佐藤 慎司 甲斐雄一郎 仲 潔 日野 信行 ましこひでのり</p>	B24	<p>ことばの教育の連携 (2)</p> <p>—ことばの教育の領域と多様性の問題を考える—</p> <p>奥泉 香 難波 博孝 野山 広 久保田電子 佐藤 慎司 熊谷 由理</p>	パネル6・C43
13:40-15:40		16:00-18:00		会場

パネルセッション IB 電子情報館

会場	9:00-11:00	11:20-13:20
パネル7・IB 011	<p>web ツールを通して世界とつながる日本語教育</p> <p>一文法用例文検索システム「はごろも」と国内外での利用可能性—</p> <p>堀 恵子 江田すみれ 山田ボヒネック 頼子 母 育新</p>	<p>実質語との共起に着目するコーパスを用いた文法研究</p> <p>—明日から教室で使える情報を見つける方法—</p> <p>中俣 尚己 清水由貴子 建石 始</p>
パネル8・IB 013	<p>日中協働プロジェクト『新界標日本語』の開発及び試行</p> <p>徐 敏民 丸山 千歌 喬 穎 小川誉子美 彭 瑾 四方田千恵 奥野由紀子</p>	<p>インドネシア中等日本語教育の現状とこれから</p> <p>—教師養成, 教師研修を中心に—</p> <p>松本 剛次 ジョジョック スバルジョ 森林 謙</p>
パネル9・IB 014	<p>アジアの中等教育における日本語教育の現状と展望</p> <p>—韓国, 中国, タイ, フィリピン, マレーシアの事例をめぐって—</p> <p>藤本かおる 柳坪 幸佳 三浦多佳史 大船ちさと</p>	<p>トロント補習授業校の日英作文力の実態</p> <p>—パイリテラル育成の観点から—</p> <p>佐野 愛子 中島 和子 福川 美沙 中野 友子 生田 裕子</p>
パネル10・IB 015	<p>ビジネス日本語の新たな学習デザイン</p> <p>近藤 彩 品田 潤子 金 孝卿 池田 玲子</p>	<p>グローバル人材への継続日本語教育</p> <p>—ブレンディッド・ラーニングによる作文添削コースの実施から—</p> <p>藤本かおる 武田 聡子 長崎 清美 伊藤麻友子</p>
パネル11・IB 大講義室		<p>3.11を〈通して〉何を学ぶのか</p> <p>マリィ クレア 塙 由起子 大橋 純 清水 晶子</p>
会場	9:00-11:00	11:20-13:20

13:40-15:40		16:00-18:00		会場
B27	日本語教育における「言語学」の可能性 山口登志子 加山 裕子 安部さやか 石山 治	B28	日本語教育につながるコーパス研究 —現状と今後の展望— ブラザント・バルデシ 今井 新悟 李 在鎬 砂川有里子 赤瀬川史朗 今村 泰也	パネル 7・ IB 011
B31	構成要素の出現状況に基づく文章・談話の構造分析 山崎 誠 大塚 みさ 江田すみれ 清水まさ子	B32	日本語教育における会話データ分析の 社会的貢献の可能性を考える —研究の時代的変遷の調査をもとに— 中井 陽子 大場美和子 寅丸 真澄 熊谷 智子 宮崎 七湖	パネル 8・ IB 013
B35	新たな日本語教育へのアプローチに挑戦 —中国の中学校における 第2外国語としての日本語教育を足場に— 加納 陸人 中野佳代子 中新井綾子 武田 育恵	B36	中学校における母語を活用した学習支援の 持続可能な展開に向けて —学校と大学の7年間の協働実践をもとに— 清田 淳子 宇津木奈美子 三輪 充子 劉 雲霞 土屋 隆史	パネル 9・ IB 014
B39	日本語の絆をつないでいくために —米国国立大学での学習意欲継続のための 動機付けへの取り組み— 竹内 弥生 出口 綾子 須賀 敦子	B40	バイリンガル教師の課題と可能性 佐々木倫子 モラレス松原礼子 崔 英善 柳 シンヒョン	パネル 10・ IB 015
B42	日本語教師養成は 「グローバル人材」育成手段として機能しうるか —高等教育機関における今後の取り組みを考える— 平畑 奈美 當作 靖彦 西山 教行 佐久間勝彦			パネル 11・ IB 大講義 室
13:40-15:40		16:00-18:00		会場

口頭発表 全学教育棟

会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10
□頭1・C10	【音声】 進行係 河野 俊之			【音声】 進行係 木下 直子		
	韓国人学習者への日本語音声教育—慶尚北道の日本語学習者を対象にして—	シャドーイングの付加価値つき利用法	初学者の音声教育で何を強調すべきか？—中国語を母語とする上級学習者の誤用分析から—	韓国人学習者の単語アクセント生成—読み上げ課題における自己評価と正誤判断課題から—	韓国語を母語とする日本語学習者への日本語アクセント教育案—ソウル方言話者と慶尚道方言話者を中心に—	ABX課題を用いた東京方言アクセントの聴取研究—中国の大学で日本語を専攻している中国語（北方方言）話者を対象に—
	C001 蟹江 美幸	C002 柴田 智子	C003 村澤 慶昭	C004 高橋 恵利子	C005 丁 愚錫	C006 梁 辰
□頭2・C11	【社会】 進行係 伊藤（横山） 美紀			【社会】 進行係 佐々木 倫子		
	日本語クラスで学習者の自律性・批判的思考能力の育成を試みることの意義とその可能性	言語景観を利用した日本語教育	多文化共生における共通語としての日本語の役割についての一考察—少数派滞日パキスタン人の言語生活を事例に—	多文化共生社会の「こころ」の対応—日本社会における「多文化間コンピテンス尺度」の開発 尺度項目の検討の観点から—	在日コリアンの言語使用に関する実態調査—在日2世・3世およびニューカマーとの比較を中心に—	「ネイティブ性」に関する一考察—「在日コリアン」教師の名のりに関する語りから—
	C013 朴 智淑	C014 早坂 直記	C015 福永 由佳	C016 稲垣 亮子	C017 郭 銀心	C018 田中 里奈
□頭3・C14	【異文化コミュニケーション】 進行係 砂川 裕一			【異文化コミュニケーション】 進行係 工藤 節子		
	日本語の発話末に見られる名前等の呼びかけ	「遠慮・察しコミュニケーション」に関する比較研究—日中の大学生を対象とした質問紙調査から—	日中韓の断る理由に関する一考察	大学における日本語学習が対日イメージに与える影響—韓国と台湾の大学生を対象として—	日本企業における中国人新入社員への対日イメージアンケート調査及び参加観察に基づいて—	インド・スリランカ人ブリッジ人材に必要なコミュニケーション上の問題解決のための調整能力—インドとスリランカの大学の日本語学習者および教員への調査を通して—
	C025 長谷川 香摘	C026 小山 慎治	C027 金 允喜	C028 櫻坂 英子	C029 横田 葉子	C030 戎谷 梓
□頭4・S10	【異文化コミュニケーション】 進行係 西口 光一			【異文化コミュニケーション】 進行係 小室リー 郁子		
	持続可能性日本語教育としての「日本事情」授業の試み—グローバル社会で生きる力の育成を目指して—	日本語力は異文化適応にどう影響するのか—適応プロセスにおける日本語力と諸変数（不安と自尊、ホームステイからのサポート、ソーシャル・スキル、異文化適応度）の関係—	相互文化学習活動におけるアイデンティティ形成の分析—社会構成主義アプローチによる異文化間コミュニケーション再考—		Facebookを使っての日米異文化交流—Social Presenceの視点からの考察—	グローバルな日本語教育を目指して—ソーシャル・ネットワークワーキング・サービスを導入した例—
	C037 房 賢嬉	C038 原田 登美	C039 北出 慶子	C041 松井 久恵	C042 クリステンセン 井関 資子	
□頭5・S11	【異文化コミュニケーション】 進行係 徳井 厚子		【文字】	【文字】 進行係 秋元 美晴		
	日本語専攻・副専攻大学生の日本語学習におけるキャリア形成意識の比較—中国人大学生へのアンケート調査から—	日韓大学生の「友達」関係の比較—「友達」と「チング」は何か違うのか—	人名表記の使用実態とその周辺	複雑さを考慮した漢字分類を応用した漢字指導法	ロシア人日本語教師にとつての漢字指導と問題点—ロシア人日本語教師を対象としたインタビュー調査を中心に—	日本語教育での古代朝鮮半島での漢字字形の確認の重要性
	C049 立川 真紀絵	C050 横山 由香	C051 渡邊 則子	C052 ガリーナ・ヴォロビヨフ	C053 プシマキナ アナスタシア	C054 兒島 慶治
会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場
【音声】			【音声】	【その他】		□頭1・C10
進行係 木下 直子			進行係 札幌 寛子			
中国人日本語学習者の韻律に関する問題点—あいまい文の理解を通して—	日本語音声の評価研究—日本語母語話者とベトナム人学習者の評価の差異—	スウェーデン語母語話者の発話における日本語の音韻的な長さの実現について	日本語学習者における日本語母音無声化について—中国人学習者とモンゴル人学習者を中心に—	短期留学生のための日本語プログラム運営		
C007 伊藤 舞知子	C008 奥村 匡子	C009 井上 美代子	C010 蘇 迪亜	C011 大川 英明		
【社会】			【社会】			
進行係 伊藤(横山) 美紀			進行係 マリィ クレア			
ラ抜き形と規範形の使用についての研究—日本語書き言葉コーパスの調査結果に基づいて—	在日朝鮮語の談話標識に関する一考察—ドキュメンタリー談話資料に見られる言語使用様相を中心に—	あいさつ言葉「こんにちは」の性格の形成—出自からの影響と変化—	日本事情教育としてのサブ・カルチャー項目抽出の試み		ホンコンの言語政策と多文化共生—外国語教育と市民意識に焦点を絞った考察—	□頭2・C11
C019 張 麗	C020 権 恩熙	C021 倉持 益子	C022 笹川 洋子		C024 岡田 憲道	
【異文化コミュニケーション】			【異文化コミュニケーション】			
進行係 太田 亨			進行係 中川 良雄			
遠隔教育学習者の目標文化に対する知識の転移と内化	ICTを活用した相互学習の課題—日中学生の学びの姿勢を中心とする—	日本語メールの文章作成の課題—日本語学習者と日本語母語話者の文章の比較分析から—	韓国の二重言語教育の実態分析及び授業事例	中国の大学における日本語視聴覚教育と授業改善の試み	日韓同時通訳授業における同形異意漢字の言語干渉	□頭3・C14
C031 藤岡 典子	C032 島本 雅文	C033 西村 史子	C034 崔 殷嫻	C035 崔 春福	C036 朴 美貞	
【異文化コミュニケーション】			【異文化コミュニケーション】			
進行係 細川 英雄			進行係 徳井 厚子			
ハイブリッド型外国語人材育成の実践的探求	多言語多文化同時学習支援—これからの日本語教育のあり方を求めて—	日本語教育と国語教育をむすぶ—高校生による日本語教科書分析—	日本語教育における日本事情教育のあり方—体験型学習を中心に—	留学生に必要なとする「一般日本事情」のあり方	人をむすび世界につながる言語教育	□頭4・S10
C043 孟 慶栄	C044 長友 和彦	C045 林 圭介	C046 木下 藍	C047 小川 都	C048 小室一 郁子	
【文字】	【聞く】	【聞く】				
進行係 住田 環			進行係 奥田 純子			
形と意味の連想記憶を利用した初級漢字教授法	自然な聞き手行動とは—母語話者と学習者の相づちと顔きの分析からの考察—	初級聴解授業におけるシャドーイング導入の試み	ストラテジートレーニングが聴解力の向上に与える効果—日本語能力試験のブリテストとポストテストを比較して—	上級日本語学習者における対話聞き取りと独話聞き取りを比較して—口頭再生の結果から—	シャドーイングとリピーティング訓練によるアクセントの聞き取り能力の変化	□頭5・S11
C055 横山 詔一	C056 半沢 千絵美	C057 江 秀姿	C058 蒔田 雅子	C059 鈴木 照	C060 阿 栄娜	
13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場

*共同発表者名は人名索引でお調べください

会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10
口頭6・S12	【話す】 進行係 三浦 香苗			【話す】 進行係 ウォーカー 泉		
	会話授業における参加者管理に関する一考察—海外の日本語教育の立場から—	聞き手を意識した口頭表現授業実践の一考察	上級日本語学習者を対象とした相互行為のマルチモーダル分析	ことばの学びを支援する遠隔日本語教育とは何か—スウェーデン・ダーラナ大学の事例から—	コミュニケーション・ストラテジーとしての「言い換え」教育	『あきこと友だちCan-doハンドブック』の作成—JF日本語教育スタンダードを取り入れた口頭コミュニケーション能力育成活動—
	C061 ウォーカー 泉	C062 大山 理恵	C063 本郷 智子	C064 斎藤 里衣子	C065 椿 由紀子	C066 渋谷 実希
口頭7・S13	【書く】 進行係 岩田 夏穂			【書く】 進行係 宇佐美 洋		
	日本語学習者グループと母語話者参加グループにおけるピア・レスポンス活動の相違—「役割としての支援」という観点から—	中国語ネイティブに向けた日本語の作文のトレーニング	作文にみる多重的な名詞修飾—日本語学習者と日本語母語話者の構造パターン—	留学生は言いたい日本語をどう見つけるのか—留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—	日本語作文読解練習のためのフェイスブッカー—学習者の教育効果の認識と態度の変化—	ソーシャルネットワークの可能性—「Lang-8を取り入れた作文活動の試み」—
	C073 朴 恵美	C074 花村 嘉英	C075 丸山 真貴子	C076 鈴木 智美	C077 中澤 一 亮	C078 羅 安碧
口頭8・S14	【読む】 進行係 佐藤 礼子			【読む】 進行係 庵 功雄		
	日本語説明文のL2読み—文構造の複雑さとテキストタイプの影響—	読解試験の困難度に影響を与える要因についての—考察—日本留学試験の模擬試験結果を利用した分析—	香港における‘日本史’授業を中心に—日本語読解力をつける試み—	速読と遅読の共通点と相乗効果—上級学習者の読みの量と質を高める要素—	外国人日本語学習者の誤理解パターンについての—ウクライナ人学習者に見られるかな表記文頭部分の捉え方—	L2日本語学習者の語彙推測—文章中の既知語率と知識源使用の関係—
	C085 李 榮	C086 吉川 達	C087 高橋 李玉香	C088 今村 和宏	C089 オーリガ・ボクロフスカ	C090 山方 純子
口頭9・S15	【談話】 進行係 西郡 仁朗			【談話】 進行係 大津 友美		
	無指示型の返答／相づちについて	「談話」からみるほらの機能	自然談話における「まあ」の使用における—考察—	会話分析の方法論の再検討—定量的・定性的分析を含む総合的会話分析に向けて—	TRPの認知の不一致による同時発話とそとの修復について—一日中対照研究を中心—to—	TRPにおけるラポール (rapport) を生み出すストラテジー—相手の情報提供発話に対する言語行動における中国人中級学習者の問題点—
	C097 高橋 純	C098 山元 一 晃	C099 山田 葵	C100 宇佐美 まゆみ	C101 賈 琦	C102 季 珂南
会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場
【話す】			【話す】		【その他】	口頭6・S12
進行係 久保田 美子			進行係 稲葉 みどり			
注釈挿入における発話構造の有標化—音声的特徴に関する一考察— C067 船橋 瑞貴	「どうもです」の使用状況と社会的評価について C068 濱屋 方子	ニュース報道の話し言葉と書き言葉の不一致に関する考察—中・上級学習者への教育の観点から— C069 金 漢植	中級学習者の口頭的表現能力を向上させる上での留意点—日本語を専攻する台湾人大学生の意識と実態調査を通じて— C070 黄 英哲	構想フォームを用いたスピーチ指導実践—韓国人中級日本語学習者を対象に— C071 古賀 万紀子	初級をやり直す学習者のやる気をどう引き出すのか—小中連携の英語教育から日本語教育へ— C072 横溝 紳一郎	
【書く】			【書く】			口頭7・S13
進行係 鈴木 智美			進行係 宇佐美 洋			
アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ教材における問題作成上の課題—要約における意味の統合に着目して— C079 鎌田 美千子	文章産出過程における辞書使用—中国人学習者の場合— C080 田中 信之	第二言語ライティングにおけるメタディスコース指導の課題と可能性—韓国人日本語中級学習者の作文事例から— C081 嶋津 百代	中国語を母語とする日本語学習者の作文にみられる「主語の不明示」と「接続表現の欠如」の問題について C082 新沼 雅代	論証文の要素の使用比率の検討—ウズベク人日本語学習者と日本人大学生、ウズベク人大学生の比較から— C083 近藤 行人	「誘い」の手紙の中文和訳に見る中国語母語話者の減訳と加訳の傾向 C084 陳 君慧	
【読む】			【談話】			口頭8・S14
進行係 今村 和宏			進行係 生天目 知美			
初級レベルの日本語学習者は「他者と読むこと」をどのように意味付けたのか—他者と一緒に絵本を読むワークショップに参加した留学生へのインタビューを通して— C091 千 花子	読解・聴解能力と記憶の関連についての縦断的検討 C092 向山 陽子	読解促進材料が日本語学習者の文章理解に及ぼす効果 C093 甲田 直美	コミュニケーション・タスクから見た中上級学習者の配慮の意識と言語形式の問題—韓国に大学における実践から— C094 金 東奎	接触場面における日本語学習者の調整行動—「内容調整行動」の分析を中心に— C095 施 信余	体験談におけるテ形容終止文の機能 C096 小玉 安恵	
【談話】			【談話】			口頭9・S15
進行係 宇佐美 まゆみ			進行係 許 明子			
パーソナル・テリトリーに関わる発話の日韓対照研究—日本語母語話者と韓国人・中国人日本語学習者との比較を通して— C103 許 明子	接触場面における日本語学習者のコミュニケーション方略の使用についての評価—会話参加者へのフォローアップ・インタビューをもとに— C104 方 穎琳	授業内に見られる質問のプロセスに関する研究 C105 吉田 睦	上級クラスにおける話し言葉の文法の指導法—経験談を語る発話文の文末を例に— C106 李 明熙	日本語の会話における話題転換方略の出現傾向 C107 花村 博司	韓日の電話会話における割り込み発話の使用様相 C108 曹 英南	
13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場

*共同発表者名は人名索引でお調べください

会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10
□頭10・S16	【専門日本語】 進行係 三牧 陽子			【専門日本語】 進行係 八木 真奈美		【教育史】
	読解を意見表明につなげるための連携授業—クリティカルな思考を促すために—	高度人材移民に対する専門日本語教育の方向—専門分野に関する日本語教育体系の確立と教師養成について—	ビジネス日本語能力に及ぼす教室活動の実証的効果について	東アジアの日本語看護・介護人材の育成とそのアーティキュレーション—老人産業と医療看護・介護通訳の関連性について—	外国人看護師候補者にとっての看護師国家試験の困難点に関する研究—状況設定問題を中心に—	言語教育政策から見た中国の日本語教育—大平学校を中心に—
	C109 加藤 由紀子	C110 中村 伊知郎	C111 張 麗琿	C112 王 珠恵	C113 加藤 敬子	C114 孫 曉英
□頭11・S1X	【専門日本語】 進行係 古本 裕子			【専門日本語】 進行係 藤森 弘子		
	ビジネス日本語テストの読解問題項目における難易度の予測と検証	ビジネス・コミュニケーション力の育成と日本語教育—ハルビン市の高等教育段階を事例に—	日本企業に入社した新卒外国人社員が直面する困難点—文系総合職の場合—	論文スキーマ形成から見た専門日本語ライティング能力獲得過程—学習者の文章と推敲作業の分析およびインタビュー調査から—	テーマの絞り込み・決定からアウトライ作成までの認知プロセスと言語化—論証型レポートの作成過程の分析より—	アカデミック・ディスコース・コミュニティーへの参加—修士課程大学院生の言語の社会化—
	C121 小野塚 若菜	C122 梁 超	C123 鈴木 伸子	C124 村岡 貴子	C125 山本 富美子	C126 宮副ウォン 裕子
□頭12・C20	【語彙】 進行係 中野 敦			【語彙】 進行係 中道 知子		
	「あまり」「あんまり」「あまりに」の使い分けについて	「とる」の基本的意味—類義語「つかむ」「にぎる」「もつ」との対応による意味的差異—	「アッサリ」の多義的意味分析	「嫌悪」を表す動詞の意味分析—「キラウ」と「ウトム」—	「ないため」の目的用法	認知言語学的カテゴリー—観に基づく複文表現の意味解釈—「～がてら」を例に—
	C133 岩崎 瑠莉恵	C134 モンジャー・ミスワソ	C135 陳 帥	C136 馬場 典子	C137 坂口 頼孝	C138 梶川 克哉
□頭13・C21	【語彙】 進行係 松下 達彦			【語彙】 進行係 三上 京子		
	協働としてのリキャスト—ブレインストーミングの一効用として—	接続表現の二重使用についてのコーパス調査—「接続詞+接続詞」と「接続助詞+接続詞」の比較から—	強調の副詞「すごく/すごい」の変遷—『国会会議録』に基づいて—	イ形とナ形をペアとして持つ語の連体修飾用法	「リアルな - 名詞」と「リアル - 名詞」の使い分け	日本語におけるオノマトペの動詞修飾について—リ語尾のオノマトペに焦点をあてて—
	C145 小山 信子	C146 大内 薫子	C147 古田島 聡美	C148 劉 善鈺	C149 渡邊 ゆかり	C150 黄 慧
□頭14・C23	【年少者】 進行係 齋藤 ひろみ			【年少者】 進行係 御館 久里恵		【生活者】
	教育委員会と大学の連携による教育支援システムは日本語教員養成に何を示唆したか—「目黒モデル」における日本語指導員による教育実践を通して—	国語のリライト教材作成におけるリライト方法の生成過程とその役割—あるボランティア団体を対象に—	実践報告「学ぶ力」を育成するためのJSL支援—「ポートフォリオ」を使った支援の試み—	海外の年少学習者に対するアニメを活用した日本語教育実践—日本語非母語教師は『アニメで日本語』のティーチング・ストラテジーをどう運用したか—	トランスナショナルな意識を育むためのバイリンガル紙芝居活動—中国帰国者集住地域の幼稚園における試み—	外国にルーツを持つ母親と幼稚園・保育園との書き言葉コミュニケーションについて—漢字圏出身者が書いた連絡帳の分析から—
	C157 川上 郁雄	C158 佐々木 奈月	C159 佐々木 摩美	C160 矢崎 満夫	C161 米本 和弘	C162 内海 由美子
会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場
【教育史】			【教育史】			
進行係 木村 哲也			進行係 小川 誉子美			
「日本語をめぐる国際交流史」の内容と意義—テキスト作成の経緯と内容について—	戦前のラジオ「国語」講座と日本語講座の比較研究—占領地と植民地との比較を通じて—	戦前台湾の社会教育における日本語教育—簡易国語講習施設で使われた教材の比較研究—	1930年代の上海に於ける日本語ブームの—考察—第二次上海事変前夜を中心に—	韓国における日本語教育の歴史	軍政下香港の民間日本語教育機関—「日本語講習所」を中心に—	口頭10・S16
C115 小川 誉子美	C116 上田 崇仁	C117 泉 史生	C118 酒井 順一郎	C119 安 志英	C120 畑澤 桂子	
【専門日本語】			【専門日本語】		【語彙】	
進行係 品田 潤子			進行係 山本 富美子			
ビジネスパーソンを対象としたコミュニケーショントレーニングの試み—授業開発の過程と実践結果—	商務日本語教育の試み—中国山東交通学院を例に—	ビジネス日本語コースにおけるプロジェクト型学習の効果とレベル差への対応	対象者別専門講義の比較分析—第二言語における専門講義理解に必要な要素とは—	講義理解を支援する日本語授業の取り組み—重要情報を提示する接続表現に注目して—	ベトナム人学習者が漢字学習で漢語系語彙を利用する際の—考察	口頭11・S1X
C127 児崎 静佳	C128 孫 守峰	C129 近藤 純子	C130 田中 典子	C131 福島 智子	C132 TRAN THI Chung Toan	
【語彙】			【語彙】			
進行係 中野 敦			進行係 谷部 弘子			
語彙要素としての複合動詞の意味—前項に「引く」を取る複合動詞を例として—	日中同形語の学習における母語の影響について—日本人の中国語学習者と中国人の日本語学習者を比較して—	同形同義語の連語形式の習得に中国語の知識が及ぼす影響	中国語を母語とする日本語学習者の漢語学習における自信度と理解度の関連性について	中国人日本語学習者の漢字語彙の音声処理能力に関する—考察	結果複合動詞の事象構造—日本語と中国語の比較を通して—	口頭12・C20
C139 後藤 美穂子	C140 何 龍	C141 小森 和子	C142 李 羽喆	C143 魏 娜	C144 張 楠	
【語彙】	【日本研究】		【日本研究】		【年少者】	
進行係 砂川 裕一	進行係 砂川 裕一		進行係 中山 英治			
日本語教育における基本語彙—台日異文化交流能力育成をめざして—	日本人の名前の特徴と指導上の留意点	文化コンテンツを通じた日本文化授業の—試み—義経の「安宅の関」の媒体別特徴を中心に—	韓国の大学における歴史素材を活用した日本文化講義—東義大学校日語日文学科での試み—	中国女性知識人が見た20世紀初期の日本—単士厘の『癸卯旅行記』—	JSLの子どもにおけることばとアイデンティティをどう解釈し、どう支援するか—JSL児童生徒への日本語支援実践の事例を通して—	口頭13・C21
C151 頼錦雀	C152 半田 淳子	C153 崔 廷銀	C154 鈴木 啓孝	C155 徐 氷	C156 マルケス・パドロ	
【生活者】			【生活者】			
進行係 足立 祐子			進行係 松岡 洋子			
ムスリムのための日本語教育カリキュラム案—「ムスリムのためのサバイバル日本語」講座の実践を基にした考察—	岡山県総社市に暮らす定住ブラジル人の言語生活—ブラジル人集住地域における日本語教育のあり方を模索する—	「職場における日本語教育」の場は外国人従業員にどのような変化をもたらすのだろうか—学習者の生活の文脈に入り込む日本語教育の可能性—	「やさしい日本語」の実相—受身の場合—	地域日本語ボランティア講座に今求められていること	地域日本語教育の類型化—福島県を事例に—	口頭14・C23
C163 深江 新太郎	C164 中東 靖恵	C165 松永 有加	C166 庵 功雄	C167 仲渡 理恵子	C168 永島 恭子	
13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場

*共同発表者名は人名索引でお調べください

会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10
□頭15・S20	【習得】 進行係 畑佐 由紀子			【習得】 進行係 福岡 昌子		
	韻律の知覚習得における方言別中国人学習者の中間言語研究	モンゴル人日本語学習者の日本語使用における誤用分析—対照言語学的観点から—	中国語母語話者の漢字学習における動機づけの検討	電子メールにおける日本語学習者の終助詞「よね」の使用と意識	日本語の敬語使用の相手と場に関する一考察—日本語母語話者と台湾人日本語学習者の比較を中心に—	台湾人日本語学習者によるテイルの習得に関する縦断調査—動詞の内在大スペクトルによる影響について—
	C169 福岡 昌子	C170 S.ドルゴル	C171 田中 美津子	C172 榎本 るい	C173 鄧 曉梅	C174 陳 建瑋
□頭16・S21	【習得】 進行係 坂本 正			【習得】 進行係 難波 康治		
	FFI (Form Focused Instruction) におけるピア・レスポンスの効果について—「～んです」の習得を目的としたタスク授業でのやりとりを中心に—	中国人日本語学習者における「のだ」の習得—日本語レベルと使用条件・非使用条件との関係について—	関西在住自然環境学習者の動詞否定形の使用について—「ない」「ん」「へん」に注目して—	暗示的知識と明示的知識の関係をめぐる先行研究の問題点—認知心理学的な視点を基に—	日本語学習における学習ストラテジー使用と時間的変化—事例研究を通して—	理系学生と文系学生の日本語学習ストラテジー使用の比較—自律的学習のためのアドバイスへの示唆—
	C181 小柳津 成訓	C182 平松 真理子	C183 武藤 佐智子	C184 藤田 裕一郎	C185 脊尾 泰子	C186 楠元 景子
□頭17・S2Y	【習得】 進行係 久保田 美子			【習得】 進行係 稲葉 みどり		
	中国人日本語学習者の「必ず」の意味知識形成	ヒンディー語を母語とする日本語学習者における格助詞「を」と「に」の習得について	日本語学習者による「です」と「ます」の文法	日本語学習者のパーフェクト用法の習得—シタとシテイルを中心に—	助詞「は」の使用における母語の影響—場所格名詞句の主題化に注目して—	中国人上級日本語学習者による授受表現の使用実態について
	C193 王 冲	C194 アヌプティ・チョーハン	C195 堀内 仁	C196 簡 卉雯	C197 蓮池 いずみ	C198 孫 成志
□頭18・C30	【教材】 進行係 Gehrtz 三隅 友子			【教材】 進行係 中山 英治		
	教材価値論の観点から見た生教材の分析と授業デザイン—映画『男はつらいよ』の副教材化—	専門辞書を組み入れた日本語学習者のためのWeb辞書の開発	ブレンド型授業を想定した初級日本語教材の開発—台湾における初級指導のパラダイムシフトに向けて—	映像作品を利用した日本語教育の可能性—教師の利用実態と認識の調査から—	「絆」～世界につながる日本語教育～インターネット素材を利用した授業報告—	アニメ、マンガ、百人一首で学ぶ日本語・日本文化—アウトプットを中心としたクロスメディア活動の実践報告—
	C205 中山 英治	C206 川村 よし子	C207 堀越 和男	C208 保坂 敏子	C209 田中 望美	C210 白井 直也
□頭19・C31	【教材】 進行係 加納 陸人			【教材】 進行係 高木 裕子		
	視聴覚授業の新たな形態の模索—日中両国のテレビ番組を用いたメディア・リテラシー向上の試み—	日本語教材作成における「文化的落とし穴」—中国人作成者を中心に—	1960年代以降の中国の大学専攻日本語教科書と日本の高等学校国語教科書との比較調査—掲載作品・作家を中心に—	新しい視点からの日本語教育教材—接触場面に基づく教材開発—	「日本語はだれのものか？」—「日本語＝日本人」を超えた日本語教育をめざして—	学習者の発話を引き出す教科書開発の意義
	C217 宮崎 恒平	C218 陳 月娥	C219 田中 祐輔	C220 由井 紀久子	C221 熊谷 由理	C222 嶋田 和子
会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場
【習得】			【習得】			
進行係 畑佐 由紀子			進行係 峯 布由紀			
第二言語としての日本語の発達過程に関わる認知的要因について—Processability Theoryの妥当性と限界—	接続助詞ト、バ、タラ、ナラの難易度と読解への影響—中国語母語話者と韓国語母語話者の比較—	アラビア語母語話者の作文における「に」の横断的・縦断的研究	類義表現「だろう・のだろうか・のだろうか」の中間言語分析—台湾人日本語学習者を中心に—	マレー人自然習得学習者の複文習得の縦断研究—従属節内の動詞形態素はいかに複雑になっていくか—	国際日本語学習者コーバスの構築	口頭15・S20
C175 峯 布由紀	C176 斉藤 信浩	C177 Ahmed HANEM	C178 黄 鈺涵	C179 高田 悠紀子	C180 望月 通子	
【習得】			【習得】			
進行係 横溝 紳一郎			進行係 八木 真奈美			
協同実践する行為主体者（アクター）から捉える新たなアーティキュレーションの提唱—グローバルレベルと市民レベルの観点から—	帰国・渡日生の言語能力—高校から大学への連携を考える—	韓国人ワーキング・ホリデー参加者の日本語習得—実践コミュニティにおける自己効力感と学び—	4人の学習者のダイアリーから「教室外のオートノミー」を考える	JFL学習プロセスにおける「楽しさ」に関する—考察	日本語学習者の日本語不安の様相—台湾出身留学生への質的研究—	口頭16・S21
C187 宮崎 里司	C188 友沢 昭江	C189 北澤 美樹	C190 村上 かおり	C191 今福 宏次	C192 藤原 京佳	
【習得】		【評価】	【評価】		【教材】	
進行係 松下 達彦		進行係 森 篤嗣				
韓国人日本語学習者の未知字を含む漢字語彙の意味推測—ルビと文脈のヒント別に—	日本語語彙能力認知診断テスト予備調査の結果—	選択肢による言語テスト「SPOT」の難易度への影響—得点段階別の分析に基づいて—	日本語能力試験点字冊子試験（聴解）の絵図問題に関する—考察—立体コピーによる加工を施した絵図の触図実験の結果から—	BJTビジネス日本語能力テストの社会的評価と教育現場での活用	講義理解支援システム「DL」システム—利用状況の分析結果—	口頭17・S2Y
C199 小林 安那	C200 谷部 弘子	C201 楊 元	C202 河住 有希子	C203 阿部 和行	C204 寺 朱美	
【教材】			【教材】			
進行係 川村 よし子			進行係 小山 悟			
映像作品を利用した日本語教育と授業デザイン—授業を通じた気づき—	小山薫堂ワールドで教える日本語—原作者と協同開発した生教材を使用しての教室活動例—	日本語教育と日本文学—文学作品の教材化を再考する—	海外における映像作品を利用した日本語教育—韓国における調査より—	大学と地域の特色を生かした教材開発	韓国人日本語学習者を対象とした中上級日本語教材の開発—『人文科学と日本語の接点』を例として—	口頭18・C30
C211 Gehrtz三隅 友子	C212 高倉 あさ子	C213 Ali Volkan ERDEMIR	C214 門脇 薫	C215 長友 文子	C216 蔡 盛植	
【教材】			【教材】			
進行係 由井 紀久子			進行係 嶋田 和子			
デジタルストーリーテリングにおける日本語協働学習—ノープスはエキスパートの学習にどう貢献できるか—	コロケーション習得支援 e-learning教材の活用—ブレンドドローニングと日本人学生との協働学習—	高職高専におけるビジネス日本語教育—第2報—	日本語学習のためのオリジナル歌教材の開発とその活用法—音声教育へのスムーズな導入や記憶の助けとなる教材を目指して—	パワーポイントを使った日本語基本文法の習得支援教材の開発—実践と課題—	学習者の創作意欲を刺激する日本語表現教育—十字モデルを物語で説明するマルチメディア教材の制作—	口頭19・C31
C223 西岡 裕美	C224 坂井 美恵子	C225 張 芸	C226 吉田 千寿子	C227 筒井 通雄	C228 牧野 由香里	
13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場

*共同発表者名は人名索引でお調べください

会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10
口頭 20・C 33	【教室】 進行係 林 さと子			【教室】 進行係 池田 佳子		
	海外の日本語教室場 面における空間配置 行動海外の日本語教 室場面における空間 配置行動—マルチ モーダルの視点から 行う「教室分析」—	教養日本語科目にお けるレベル別授業の 試み—授業担当教授 の認識調査を中心に—	日本語教師支援のた めの情報リテラシー 学習サイトの開発	協働学習による日本 の行事の導入と成果	「楽語（らくご）」で 学ぶ日本語：落語活 動、七年の歩み	総合的コミュニケー ション能力獲得のた めに既存教科書 SFJ をいかに活用するか— 短期プログラムで の実践報告—
	C229 池田 佳子	C230 金 鍾熙	C231 加藤 由香里	C232 池原 明子	C233 入戸野 みはる	C234 野口 潔
口頭 21・C 34	【教師】 進行係 文野 峯子			【教師】 進行係 館岡 洋子		
	協働学習から自律学 習へ導く教師の役割 についての一考察	台湾における中等教 育日本語教師の基礎 的な教授能力とは— 日本語教師のインタ ビューを通して—	非母語話者日本語教 師志望者の教授不安 —教育実習前後の変 化—	教師に求められる 「授業運営上の技能」 について	米国におけるオンラ イン日本語教師専門 能力開発コース— JOINT—実践報告—	経験の浅い中国人日 本語教師の自己成長 モデルの研究—中国 A 大学における調査 結果の分析を通し て—
	C241 中井 好男	C242 林 長河	C243 西谷 まり	C244 足立 祐子	C245 牛田 英子	C246 辺 晴
口頭 22・C 40	【文法】 進行係 許 夏玲			【文法】 進行係 今井 新悟		
	日本語の「ウ・ヨウ」 と中国語の“要”の 比較・対照研究—認 知言語の視点より	条件表現「ても」の 不使用について—中 国語の母語干渉の観 点から見て—	日中対訳・翻訳デー タに見られる時を表 す従属節について	均衡コーパスから抽 出した基本動詞 100 語の格フレーム	モダリティ表現が 複文再生に与える影 響	日本語学習者コーパ スに基づく 2 文の接 続に関する誤用の類 型—中国語母語話者 と英語母語話者の場 合—
	C253 展 艶	C254 陳 昭心	C255 塩入 すみ	C256 李 在鎬	C257 萩原 章子	C258 小柳 昇
口頭 23・C 41	【文法】 進行係 玉岡 賀津雄			【文法】 進行係 小野 正樹		
	「はずだ」の多義性 と発話の理由提示		連体修飾節の日中対 照研究—談話展開機 能と眼前描写機能を めぐって—	NP+ハ」と「NP+ φ」の主題提示形式 の相違に関する一考 察—「雨ハ降って る?」と「雨φ降っ てる?」はどのよう に違うのか—	接続助詞「し」の意 味・用法に関する予 測文法的研究	中途終了型発話文に おけるケド節とノデ 節の待遇の相反機能
	C265 木下 りか		C267 畢 春玲	C268 久我 瞳	C269 中野 仁美	C270 楠本 徹也
口頭 24・C 42	【語用論】 進行係 ボイクマン 総子			【語用論】 進行係 荻原 稚佳子		
	自由会話における日 中韓国語母語話者の 言いさし使用の比較 研究—カラ節による 言いさしの使用に注 目して—	話題展開と反論提起 の場面における重なり の効果と要因	「聞き手」に焦点を 当てたスピーチスタ イルの指導	歴代総理大臣の国会 演説に於ける結びの 表現について	未知の情報を受け取 る応答表現に現れる 話者のポジティブ・ ポライトネス— “familiarity”の表明—	中国人日本語学習者 の中間言語から中日 ポライトネスの違い を探る—依頼、依頼 に対する断りについ て—
	C277 荻原 稚佳子	C278 李 孝蓮	C279 藤原 安佐	C280 劉 桂萍	C281 伊藤 奈津美	C282 呉 昊
会場	9:00-9:30	9:40-10:10	10:20-10:50	11:20-11:50	12:00-12:30	12:40-13:10

*発表者名：筆頭発表者のみ記載 *発表分野：発表者による希望審査分野に基づく（一部、内容により分野の変更あり）

13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場
【教室】			【教室】			
進行係 鎌田 修			進行係 小澤 伊久美			
既存の教材を用いた練習で「できること」と「できないこと」—「概念と形式の結びつき」と「概念と弁別能力」からの分析—	遠隔チューター参加による少人数グループ化作文授業の実証研究	「私の好きなもの」と、それが好きな理由を語る活動—個人の価値観を社会につなげることを目指して—	協働で先行文献との対話の仕方—考	韓国中等教育の日本語教師と生徒が持つ言語教授・言語学習ビリーフ	教室内での使用言語についての—考察—オーストラリアの大学の学習者の視点から—	□頭20・C33
C235 立部 文崇	C236 大塚 薫	C237 原 伸太郎	C238 張 瑜珊	C239 杉本 香	C240 大原 哲史	
【教師】			【文法】			
進行係 木田 真理			進行係 奥野 由紀子			
スタイル切り替えとインドネシアにおける日本語会話教育	日本語教師の発問の傾向—読解授業の経験年数による違い—	インドネシアの中等教育における日本語教師研修インストラクターの養成—教育省語学教員研修所と高校日本語教諭の連携による研修の自立化を目指して—	現代日本語における形容詞と「がる」との接続	同時進行を表す接続助詞「ながら」「つつ」に見られる統語的差異について	話し言葉に見られる「ト力」の「引用的」機能	□頭21・C34
C247 Wiwik Setyoriny	C248 大野 陽子	C249 秋山 佳世	C250 韓 金柱	C251 鴛海 芙美	C252 山内 美穂	
【文法】			【文法】			
進行係 野田 尚史			進行係 玉岡 賀津雄			
「形容詞連用形＋する」と他動詞「～める」の使い分け—「高くする・高める」「深くする・深める」「強くする・強める」を例にして—	日本語の〈動名詞〉ニ／トナルの語形成と意味	日本語の副詞についての—考察—「副詞＋の＋名詞」のパターンから—	英語受動文からハ、ガ構文へ	遊離数量詞の指導法における統語論・語用論的アプローチ	主部内在型関係節の学習者への導入	□頭22・C40
C259 山上 聡美	C260 蘇 文郎	C261 郭 世豪	C262 平出 彰	C263 田中 拓郎	C264 伊藤 創	
【文法】			【文法】			
進行係 木下 りか			進行係 小野 正樹			
副詞的成分「ゆっくり(と)」「遅く」「遅れて」	「カモシレナイ」、「ヨウトスル」の許容度に見られる世代差—視点の観点から—	論理的な文脈展開を支える連文型について	不可能表現「～かねる」の意味用法	「Vーる＋ことがある／ない」の意味的・語用論的用法について	「言う」と「話す」の使い分けに関する研究	□頭23・C41
C271 劉 怡伶	C272 國澤 里美	C273 宮澤 太聡	C274 那波 理絵	C275 呂 雷寧	C276 荻原 知世	
【語用論】			【語用論】			
進行係 ボイクマン 総子			進行係 山岡 政紀			
日中語ボライトネス方略の語用特徴—2言語学習者と2言語母語話者を通して—	待遇表現における丁寧度に関する研究—台湾人大学生と日本人大学生のデータを中心に—	依頼場面における間接的発話行為とその諸相—日本語とタイ語の対照を中心に—	「依頼」行為における日本語学習者の「依頼の負担度」の評価—日本語母語話者との比較—	関係修復のコミュニケーションに社会的ファクターが与える影響	授受補助動詞テクレルが使用された文の表現機能に関する—考察—	□頭24・C42
C283 鄭 智恵	C284 呉 岳樺	C285 SENA Khwanchira	C286 手嶋 千佳	C287 郭 碧蘭	C288 廣居 美樹	
13:40-14:10	14:20-14:50	15:00-15:30	16:00-16:30	16:40-17:10	17:20-17:50	会場

*共同発表者名は人名索引でお調べください